

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081101) 大学入門ゼミ L(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期月1 提供部局:大教センター DPコード:abd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 小西 憲一, 轟木 靖子, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。)			
【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等 その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081102) 大学入門ゼミ L(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期月1 提供部局:大教センター DPコード:abd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 片岡 元子, 轟木 靖子, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。)			
【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等 その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081103) 大学入門ゼミ L(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期月1 提供部局:大教センター DPコード:abd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 松本 博雄, 轟木 靖子, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。) 【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等 その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。

<p>ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081104) 大学入門ゼミ L(4) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期月1 提供部局: 大教センター DPコード: abd 単位数 2</p>	<p>対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 松島 充, 四ッ谷 直仁, 松下 幸司</p>	<p>関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。</p>			
<p>授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。</p>			
<p>到達目標</p>			
<p>1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生生活 15 発表・まとめ</p> <p>(授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。)</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】</p> <p>第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。</p> <p>(詳細は、授業時に指示する予定です。)</p>			
<p>教科書・参考書等</p>			
<p>その都度必要な資料を配布する。</p>			
<p>オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)</p>			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081105) 大学入門ゼミ L(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期月1 提供部局:大教センター DPコード:abd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 小方 朋子, 四ッ谷 直仁, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。)			
【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等 その都度必要な資料を配布する。			
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081106) 大学入門ゼミ L(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期月1	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : abd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 上野 耕平, 植田 和也, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ)			
履修推奨科目				
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法（「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」）を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。				
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び（共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応）、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成（共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応）および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。				
到達目標				
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる				
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。)				
【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)				
教科書・参考書等 その都度必要な資料を配布する。				
オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)				

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-abdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081107) 大学入門ゼミ L(7) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期月1 提供部局:大教センター DPコード:abd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 清水 頭人, 笹屋 孝允, 植田 和也, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 「情報整理の方法」 3 「日本語技法①」 4 一日研修の事前指導、大学生としてのマナーある行動 5 一日研修 6 「日本語技法②」 7 学校参観の視点と心構え、学校参観のマナー・モラル 8 小学校参観 9 小学校参観の体験交流 10 「レポートの書き方」 11 「プレゼンテーションの方法」 12 幼稚園・中学校参観 13 幼稚園・中学校参観の体験交流 14 発表準備、社会のルールと大学生活 15 発表・まとめ (授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。)			
【自学自習に関するアドバイス】 第2、3、6回 実際に他の授業を受けるときや、調べたり発表したり、教員宛にメールを書くときに実践してみる。 第10回 宿題のレポートを書いてポイントを確認する。 第7回 自分の訪問する附属学校園についてHP等で確認する。 第8、9、12、13回『参観の記録』に書き込んだメモを整理して、振り返り活動に活かせるようにしておく。 第14、15回 「プレゼンテーションの方法」で学んだ手法を生かしながら、プレゼンを作成し、発表の準備をしておく。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			
教科書・参考書等 その都度必要な資料を配布する。			

オフィスアワー (第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」としての自覚を持って附属学校園における保育・授業参観に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-cbdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081201) 大学入門ゼミ J(1) Startup Seminar on Academic Literacy 戦後民主主義の原点 Our first step toward the democracy after our defeat in the Second World War	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期火3 提供部局:大教センター DPコード:cbd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 山本 陽一	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業は、日本が日中戦争と太平洋戦争に敗北して再スタートを切ったとき、民主主義がどのように理解され、教えられようとしていたのかを学習する。このテキストは、もともと1948年に刊行されており、現在のわたしたちにとっては史料である。しかし、それは同時に、同じ憲法のもとで当時の文部省が出したものであり、連続性がある。現在の状況と比較すると、わたしたちはどこかで道を間違えたのではないか、という疑念にかられる。もしそうなら、これからどうするのがいいかということも考えなければならぬだろう。歴史は進歩するとはかぎらない。			
授業の目的 日本の戦後民主主義のスタート地点に立ちかえて、現在の地点との連続と断絶あるいは変化について考えてみる。			
到達目標			
1. 敗戦後の日本の民主化について知る。共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 敗戦後から日本がたどってきた道について批判的に考える。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. 他者のいうことを読解・理解し、それについて自分の意見を明確にすることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回の「フォーム」とそれに対するコメントの作成によって評価する。フォームについては授業のすすめかたを参照のこと			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス、「フォーム」の作成等 第2回 『なんにもなかった』から 第3回 渡辺清『砕かれた神』から 第4回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第2章「民主主義の発達」 第5回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第3章「民主主義の諸制度」 第6回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第4章「選挙権」 第7回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第5章「多数決」 第8回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第6章「目覚めた有権者」 第9回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第8章「社会生活における民主主義」 第10回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第9章「経済生活における民主主義」 第11回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第10章「民主主義と労働組合」 第12回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第12章「日本における民主主義の歴史」 第13回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第13章「新憲法に現われた民主主義」 第14回 『民主主義』(角川ソフィア文庫)第15章「日本婦人の新しい権利と責任」 第15回 大岡昇平「戦後40年を問う」(『証言その時々』所収)			
【授業及び学習の方法】 授業の参加者は、すべての人が毎回、所定の「フォーム」を作成し、それを授業日の二日前までに添付ファイルとして全員に配信します。そして、やはりすべての人が毎回、一人の「フォーム」にコメントをし、それを授業日の前日までに全員に添付ファイルで配信します。だれがだれのフォームにコメントするかは最初の授業でお知らせします。また、フォームの作成方法等についてもガイダンスで説明します。 授業は、提出されたフォームとコメントを検討するかたちで進めていき、みなさんからの意見を出してもらって理解を深めます。			
文章作法等の一般的なことがらについては適切な回において指導します。また、図書館の利用や講演会に授業が当てられる場合は、そちらを優先します。			
この科目は基本的に対面授業としますが、一部の授業回では遠隔授業を行います。			

教科書・参考書等

文部省著『民主主義』（角川ソフィア文庫）を生協で購入してください。ほかの資料はこちらで準備してモデル上で配布します。

オフィスアワー 前期木曜4時間目**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

授業を欠席する場合は、事前にメールでお知らせください。不測の事態のときは、事後にすみやかに連絡をしてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081202) 大学入門ゼミ J(2) Startup Seminar on Academic Literacy 自由と法について考える Startup seminar -Liberty and Law	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク	時間割 2021年度 前期火3 提供部局:大教センター DPコード:acx 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 岸野 薫	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 授業計画の前半では、大学生・社会人として必要な知的技法を身につけることを目指します。 授業計画の後半では、前半に学んだ基本的スキルを生かして、自由と法にかかわる問題を素材にグループで報告・討論を行い、その問題をいかにして解決するかを考えていきます。			
授業の目的 本ゼミは、①大学生として必要な知的技法を学ぶと同時に、②基本的な法的思考方法を身につけることを目的とします。			
到達目標			
①必要な形式を守り、課題に沿った内容のレポートを書くことができる。 [→共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応] ②法的課題を見つけ出し、解決の道筋を考えることができる。 ③積極的に議論に参加し、他者を説得する意見を述べることができる。 [→②及び③は共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応]			
成績評価の方法と基準 各テーマ毎のミニレポート(複数回)、1,500字のレポート(1回)、議論への参加状況によって、総合的に評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業形態】 演習形式で対面授業を行う。			
【授業計画】 第1回 ガイダンス 第2回 報告レジュメやレポートの作成に必要な資料収集の方法を学ぶ(@大学図書館・法学資料室) 第3回 情報整理の方法・日本語技法を学ぶ 第4回 レポート作成時の作法(研究倫理)を学ぶ 第5回 プレゼンテーションの方法を学ぶ 第6回 講演会 第7回 実践:未成年者の自由と法(1) 第8回 実践:未成年者の自由と法(2) 第9回 実践:表現の自由と法(1) 第10回 実践:表現の自由と法(2) 第11回 実践:学校生活と信教の自由(1) 第12回 実践:学校生活と信教の自由(2) 第13回 実践:自由と平等(1) 第14回 実践:自由と平等(2) 第15回 まとめ			
*第2回から第6回は全学の「共通コンテンツ」となります。大学図書館・資料室の見学、講演会の日程については現在未定のため、第2回から第6回の中で順番が入れ替わることがあります。			
【準備学習・事後学習】 第2回から第6回については、授業中に出された課題をこなすことが必須となります。 第7回以降では、グループに分かれて報告を担当します。報告班はレジュメの作成等の報告準備を行い、報告班以外は各回に予定されているテーマを予習し、議論に備えます。 授業後には、報告班は1,500字のレポートを作成します。報告班以外の受講者はミニレポートを作成し、次の授業で提出します。			
教科書・参考書等 宍戸常寿編『18歳から考える人権〔第2版〕』(法律文化社、2020年)2,300円+税			
オフィスアワー 前期:月曜日16:20-17:20 南キャンパス6号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			

授業計画後半の自由と法に関する実践では、討論が中心となります。
討論は、報告班以外の受講者が積極的に議論に参加することで成り立っています。事前の準備は怠らないようにしてください。期末試験のない演習形式の授業ですので、毎回の議論への積極的な参加が求められることとなります。
また、無断欠席は厳禁とします。

ナンバリングコード B1ACL-abcG-10-Ex2 授業科目名 (時間割コード:081203) 大学入門ゼミ J(3) Startup Seminar on Academic Literacy 法学入門 Introduction to legal studies	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期火4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局:大教センター DPコード:abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習	単位数 2	
担当教員名 塚本 俊之	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 演習90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 高校までの勉強と違って、大学では「正解」のない問題を扱います。そこで、漫然と高校までの勉強の仕方をしていくと大学ではうまくいかない可能性があります。この授業では、「正解」のない問題を扱うためには「考える」力が必要になると考え、その力を討論ないし対話を通じて磨いていきたいと考えています。そして、「考える」素材として法律学の文章を取り上げ、また、グループ発表の方式を取り入れることで、法学部での学習の導入としての意味を持たせたいと考えています。			
授業の目的 「正解」のない問題にも対応できるように、討論や対話を通じて「考える」ことのトレーニングをするとともに、法律学の素材を取り入れることで、法律学の文章を読む力、法律学の知識や考え方を身に着ける。			
到達目標			
1. 「正解」のない問題について考えることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. 「正解」のない問題について討論できる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 法律学の文章を読んで理解することができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 レポートと討論への参加状況を総合的に判断して評価します。 欠席は、理由によっては成績に影響する場合があります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
(1) ガイダンス (2) 図書館・資料室訪問 (3) 情報整理の方法・日本語技法①② (4) レポートの書き方・プレゼンテーションの方法 (5) 講演会 (6) ～(10) 討論(第1部:身近な問題を素材とする) (11) ～(15) 討論(第2部:法律学の文章を素材とする) (2) 図書館・資料室訪問と(5) 講演会は、日程調整の結果によって、別の回になる可能性があります。 (6) ～(10) 討論(第1部)では事前の準備は原則として必要ありません。 (11) ～(15) 討論(第2部)では配付された資料を授業の前に読んでいただきます。 この科目はすべての授業回について対面方式で行うことを予定していますが、すべてまたは一部を遠隔方式に変更する可能性があります。			
教科書・参考書等 特に指定しません。適宜指示します。			
オフィスアワー 火曜日10時30分～11時30分(幸町南6号館3階)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ありません。			

ナンバリングコード B1ACL-cbdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081204) 大学入門ゼミ J(4) Startup Seminar on Academic Literacy 転換期における雇用社会の実態と将来の展望 (The current situation and future of the world of work on the turning point)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期火4	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : cbd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 細谷 越史	関連授業科目 労働法、社会保障法			
	履修推奨科目 憲法、民法			
学習時間 講義90分×15回+自学自習				
授業の概要 近年におけるワーキングプアと呼ばれる労働者層の増加や派遣切りの増加などに見るように、雇用社会の実態は厳しさを増している。また、労使関係をめぐる法制度は、国際競争の激化、日本的労使関係の変容や労働組合の組織率低下などの状況変化にさらされ、その進むべき方向性を見失っているように思われる。このような激変期の下で、雇用社会の実態を認識し、また、労働基準法や労働契約法を中心とする個別的労働関係法分野ならびに、労働組合法を中心とする集団的労働関係法分野における各法制度に検討をくわえ、さらに、今後の雇用社会に関わる法のあり方を展望する。 【他の授業科目との関連】 なお、本ゼミを受講すると同時に、憲法や民法の基礎的知識を習得されることが望ましい。さらに、労働法や社会保障法の受講も推奨する。				
授業の目的 主として労使関係をめぐり社会に生じる諸現象を的確に捉えたうえで、こうした現象を素材にして、整理・分析・議論等の手法を身につけることを目的とする。				
到達目標				
1. 雇用社会に生じている諸問題を的確に捉えて評価・検討することができる。 2. 今後の雇用社会のあるべき姿を展望することができる。 3. こうした学習を通じて、学生個々人が目的意識をもって学生生活を送ることができる。				
成績評価の方法と基準 出席点にくわえて、課題についての報告への取り組みや質問等に対する受け答えを基本的な評価要素とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
設定された課題について受講生に報告を行ってもらい、それを受けて質疑・応答を行い、そのテーマに関する理解を深める。 設定された課題については、報告者のみならず全員が資料収集と検討を行う必要がある。				
第1回 情報整理の方法を学ぶ。 第2回 図書館や資料室を見学し、文献収集の技法などを学ぶ。 第3回 プレゼンテーションの方法などを学ぶ。 第4回 レポートの書き方、日本語技法などを学ぶ。 第5回 講演会に参加し、プレゼンテーションの実践を学び、レポートをまとめる。 第6回 本ゼミの検討テーマに関する概括的な説明および意見交換を行う。こうしたテーマをめぐり受講生の興味・関心などを聞いたうえで、本ゼミの方向性ないし、検討素材、報告課題等を確定する。 第7回～第15回 前回は決定された検討素材や報告課題に関する受講生による報告と、質疑・応答を行う。この科目は、前半の回を遠隔で行い、後半の回を対面で行う予定です。なお、状況によっては授業形態の予定が変更される可能性があります。				
教科書・参考書等 特定の教科書は指定しない方向で考えている。 参考書としては、西谷敏『労働法〔第2版〕』（日本評論社）4700円+税 菅野和夫『労働法〔第11版〕』（弘文堂）5300円+税 『労働判例百選〔第9版〕』（有斐閣）2476円+税 などをあげることができる。 なお、ゼミを受講するに際してさしあたり何かを購入しておく必要はない。				
オフィスアワー 原則として火曜5限とする。				
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回の予習と質疑・応答への積極的な参加、十分な準備に基づく報告などを通じて、法学学習・研究に不可欠な基礎力を養っていただきたい。				

ナンバリングコード B1ACL-cabG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081205) 大学入門ゼミ J(5) Startup Seminar on Academic Literacy 時事問題について考える Study of Current Topics	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク	時間割 2021年度 前期火4 提供部局:大教センター DPコード: cab 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 前原 信夫	関連授業科目 履修推奨科目 法学部の入門科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 この授業では、情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法など、大学で勉学するために必要な基本的スキルを習得する機会を提供する。そしてそれを踏まえて、広く経済・社会一般で話題になっている時事問題を題材とし、その問題の内容や背景等について理解を深めるために、協同学習(グループワーク)により調査・検討・報告を実施する。			
授業の目的 決して一問一答型の答えや正解探しでない時事問題の内容を理解するとともに、そうした問題が経済・社会に与える影響や課題の考察を通して、大学生の資質として求められる「調べる・考える・伝える」力を身に付けることを目的とする。			
到達目標			
(1) 学習に必要な資料や情報を収集・整理することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (2) 各テーマの時事問題に関する資料や情報の内容を正確に捉え、説明することができる(共通教育スタンダードの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (3) 調査・検討した成果や自分の意見をまとめ、わかりやすく伝えることができる(共通教育スタンダードの「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 (1) 報告(報告用のレポート作成や口頭発表等) (60点) (2) 質疑応答を通じた授業への貢献度 (40点)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス・授業の進め方について/自己紹介 第2回 図書館・資料室ガイダンス 第3回 情報整理の方法 第4回 日本語技法① 第5回 日本語技法② 第6回 法学部講演会 第7回 プレゼンテーションの方法・レポートの書き方 第8回 準備作業のための協同学習(グループワーク) 第9回 グループワークによる報告(テーマ①) 第10回 グループワークによる報告(テーマ①) 第11回 グループワークによる報告(テーマ②) 第12回 グループワークによる報告(テーマ②) 第13回 グループワークによる報告(テーマ③) 第14回 グループワークによる報告(テーマ③) 第15回 全体のまとめ			
ただし、上記の授業計画は受講生の数または授業の進捗状況その他の事情により変更することがある。			
【授業および学習の方法】 第2回から第7回までは、大学で勉学するために必要な基本的スキルを学ぶ。第8回以降は、各テーマにおいてグループで準備作業を行い、調査・検討・報告を行うことになる。 この科目は全回対面授業を行う。状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。 この科目は全回対面授業を行う。なお、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。			
【自学自習に関するアドバイス】 第9回から第14回のグループワークによる報告では、上記の授業計画において「第8回 準備作業のための協同学習(グループワーク)」を設けているが、授業時間外でもグループ単位で継続して準備作業や報告の打			

合せ等を行うことが必要になる。

教科書・参考書等

特に指定しない。必要な資料は配布するが、グループワークでは受講生各自で資料収集を行う必要がある。

オフィスアワー 火曜日17時-18時／法学部棟（幸町南6号館）5階研究室。これ以外の時間帯を希望する場合は、下記メールアドレス宛てに事前に連絡すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断で欠席した受講生には単位を認定しない。

<p>ナンバリングコード B1ACL-abcG-10-Ef2 授業科目名 (時間割コード:081206) 大学入門ゼミ J(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ 法の運用現場を学ぶ(Introduction to how to practice law)</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 フィールドワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期火3 提供部局: 大教センター DPコード: abc 単位数 2</p>	<p>対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 平野 美紀</p>	<p>関連授業科目 刑事法入門、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、少年法 履修推奨科目 刑事法入門</p>		
<p>学習時間 講義90分×6回+グループ学習90分×5回+施設見学等4回+自学自習</p>			
<p>授業の概要 新入生が大学での勉学を開始するにあたり、必要な事項(たとえばレポートの書き方など)を大学共通事項として学び、さらにそれを実践的します(自分でレポートを書いて教員が添削する等)。また法学部生として必要な資料収集方法を学び、それを実践して収集したうえで、グループによって報告にまとめます。その際には、プレゼンの仕方、また報告を聞く側はそのマナーも学びます。また、裁判所や刑務所見学を行い、法律が実際にどのように運用されているのかの実際も学びます。</p>			
<p>授業の目的 ①: 大学生として必要なレポートの書き方やプレゼンテーションの方法、法学部生として必要な文献収集方法を学ぶ。 ②: 施設等を見学し、実際の法の運用について学ぶ。 ③: ①や②について、一定のルールに従って、ほかの人に理解してもらえるような、レポート、プレゼンテーションを行う。</p>			
<p>到達目標</p>			
<p>①必要な文献・判例を収集し、読み込むことができる。 ②資料をもとに、聞いている人にわかりやすいプレゼンができる。 ③資料や自分の考えをレポートとして文章にまとめることができる。 ④他の人のプレゼンや意見を聞き、お互いに学びあうことができる。 ⑤成文法と法の運用現場について、自分の考えを述べるができる。 (共通教育スタンダードの以下に対応 ・言語運用能力/課題解決のための汎用的スキル ・知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識 ・問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力)</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>レポート45%、プレゼンほかグループワーク(見学含む)への積極的な参加55%</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>*コロナの感染拡大防止等の事情、および見学予定先の事情等により施設見学の予定が変更になると日程や予定は大幅に変更となる可能性があります。詳細はガイダンス時に説明しますが、その後はMoodle上で各自予定を確認の上、参加してください。 *対面をオンラインに変更、あるいはその逆になる場合があります。</p> <p>(1) ガイダンス<対面> (2) 情報整理法・日本語技法・プレゼン方法<オンライン講義> (3) 資料収集方法と課題設定とグループワーク<対面> (4) プレゼン①準備(グループワーク)<対面> (5) プレゼン①実践(グループワーク)<対面> (6) プレゼン②準備(グループワーク)<対面> (7) 5月26日水曜 法学部・講演会(予定)【課題レポート①】 (8) プレゼン②実践(グループワーク)と施設見学の注意事項<オンライン講義>レポート①提出 (9) 課題レポート①講評(グループワーク)<対面> (10) 課題レポート①講評<対面> (11) 施設見学(高松家庭裁判所)<対面>【課題レポート②】 (12) 課題レポート②講評(グループワーク)<対面> (13) 施設見学(高松保護観察所)<対面>【課題レポート③】 (14) 課題レポート③講評(グループワーク)<対面> (15) まとめ<対面></p> <p>【自学自習について】 ・講義の際、教員にメールで書類を添付したり、Moodleに書類を提出してみる。 ・設定されたテーマについて、グループごとに資料を収集し、報告内容をまとめて、プレゼンする。</p>			

- ・施設見学をし、その内容と感想をレポートにまとめて、Moodle上に提出する。
- ・レポートは教員が添削するほか、（執筆者の氏名を削除した）レポートをお互いが講評してみる。

教科書・参考書等

教科書は利用せず、資料等を配布して説明し、またテーマごとに自分たちで資料収集を行ってもらいます。

オフィスアワー 火曜 12時～13時 可能な限り下記メールアドレス宛に事前にご連絡ください
(3階 平野研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・施設見学は先方の事情やコロナ感染防止対策等により、上記予定も変更の可能性があります。また、水曜3時限目に行く可能性があります。詳細は授業第1回目のガイダンスにてお知らせし、以後はMoodle上にて周知いたします。

<p>ナンバリングコード B1ACL-abcG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081207) 大学入門ゼミ J(7) Startup Seminar on Academic Literacy 民主主義とは何だろうか What is democracy ?</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期火4 提供部局: 大教センター DPコード: abc 単位数 2</p>	<p>対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 藤井 篤</p>	<p>関連授業科目 平和学、政治思想 履修推奨科目 平和学</p>		
<p>学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)</p>			
<p>授業の概要</p>			
<p>民主主義とは何かは自明の問題ではない。これまで民主主義とは何だと考えられてきたのか、私たちの生活にとって民主主義にはどのような意味があるのか、今後民主主義はどのようなものになりそうかについて、最新の政治学のテキストを読みながら、みんなで考える。また代表、討議、権力、決定、自由といった政治にかかわる概念について理解を深める。テキストを読みながら、批判的読解力を身につけ、発表や討論の作法を学ぶ。そして政治に関する問いの正解はひとつではなく、いろいろあるのだということを理解する。</p>			
<p>授業の目的</p>			
<p>民主主義をめぐる諸問題について、政治学的に考え、説明ができるようになる。テキストを素材として、論理的な文章を読解できるようになる。さらに自分の考えを論理的に表現できるようになる。公共社会において責任のある市民として活躍できるようになる。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代の民主主義が抱えている諸問題について、政治学の概念を正しく使いながら説明ができるようになる (共通教育スタンダードの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. テキストを正しく読解しながら、批判的に考える能力と習慣を身につける (共通教育スタンダードの「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 論理的に自分の考えを表現できる文章力を身につける (共通教育スタンダードの「言語運用能力/課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>毎週のゼミへの出席と取り組み方の熱意(40%)、書評レポートの出来(50%)、法学部講演会参加感想文(10%)を総合して成績評価する。</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画】</p>			
<p>第1回 オリエンテーション: 政治学的に考えるととはどういうことか 第2回 情報検索の技術 図書館を使う 第3回 情報整理の方法/日本語技法① 第4回 日本語技法②/プレゼンテーションの方法 第5回 レポートの書き方 第6回 法学部講演会 第7回 宇野重規『〈私〉時代のデモクラシー』岩波新書、第1章 第8回 同上、第2章 第9回 同上、第3章 第10回 同上、第4章 第11回 杉田敦『政治的思考』岩波新書、第1、2章 第12回 同上、第3、4章 第13回 同上、第5、6章 第14回 同上、第7、8章 第15回 総括・書評会 2冊の本を読み比べて論じる。</p>			
<p>なお、現在のところ5月26日(水)3限に法学部講演会を予定しており、これを第6回の授業に当てる。学生には講演会に参加した感想文の提出を求める。</p>			
<p>【授業及び学習の方法】</p>			
<p>テキストの輪読形式でゼミを進める。履修者全体を4つの班に分けて、各班ごとに報告発表をしてもらう。また第2回では図書館で情報検索の技術を学び、単行本、雑誌論文、新聞記事の探し方を身につける。第3回以降の報告発表では、テキストの単なる要約ではなく、新たに自分たちで調べた知見やニュースを盛り込みながら、テキストの内容を裏付けたり、反論したりする「批判的読解」を求める。取り上げたテキストのうちいずれか1冊について書評レポートを書いてもらう。</p>			
<p>この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。</p>			

【自学自習のためのアドバイス】

全員毎回テキストの指定された箇所を必ず読んだ上で授業に臨むこと。事前に2回繰り返して読むこと。テキストに赤線を引いたり、書き込みをしながら、自分の考えを可視化すること。それは2回目に読むときに助けになるし、理解を深めることができる。ゼミが成功するかどうかは、報告担当班の発表如何にかかっている。報告発表の準備には2週間かけること。他の文献や資料を読み、ゼミで議論すべき論点を提案し、レジュメをまとめる。報告担当班の班長は、これら様々な作業を班員に割り振り、学期全体でおおよそ負担が公平になるように配慮すること。

教科書・参考書等

宇野重規『<私>時代のデモクラシー』岩波新書

杉田敦『政治的思考』岩波新書

テキストを変える場合がある。

オフィスアワー 毎週火曜日の13時から14時とするが、これ以外の時間帯でもアポイントメントをとれば、いつでも面談する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回テキストの指定された箇所をきちんと読んでくること。毎回出席をとる。正当な理由なく3回欠席すると単位は与えない。欠席の際には必ずメールで教員に連絡すること。ゼミに関する連絡はすべてメールで行うので、毎日メール・チェックする習慣をつけること。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081208) 大学入門ゼミ J(8) Startup Seminar on Academic Literacy アカデミックスキルの実践 Application of Academic Skill	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期火3 提供部局:大教センター DPコード:acd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 堤 英敬	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 大学での学びにおいては、正解の決まっていない問題に対して自ら答えを導き、それを適切に表現することが求められます。この授業では、情報整理の方法や日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など、大学における学びに際して必要とされる「アカデミックスキル」について学びます。その上で、グループワークによって、今日の政治・経済・社会的課題についての調査を行い、その結果について報告を行います。			
授業の目的 大学での学びにおいて必要な基本的スキルを身につけること、法学や政治学を学ぶ上で求められる、現代の社会が抱える課題に対する関心を高めること、他者と協力して調査・研究を行う姿勢を身につけることが、この授業の目的です。			
到達目標			
1. 情報を適切に収集・整理して調査・研究を行い、他者に伝わるよう口頭や文章で表現できる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークにおいて積極的に行動し、他者と協調して課題に取り組むことができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 現代社会が抱える課題を自らと関連付けて理解し、その解決策を探求することができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 課題の提出状況(20%)、授業やグループワークへの参加度(30%)、個人報告の内容(10%)、グループ報告の内容(20%)、期末レポート(20%)によって評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス・授業の進め方について/自己紹介 第2回 図書館・資料室ガイダンス 第3回 情報整理の方法 第4回 日本語技法① 第5回 日本語技法② 第6回 法学部・講演会 第7回 レポートの書き方 第8回 プレゼンテーションの方法 第9回 プレゼンテーションの実践(1) 第10回 プレゼンテーションの実践(2) 第11回 グループワーク(1) 第12回 グループワーク(2) 第13回 グループ報告(1) 第14回 グループ報告(2) 第15回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 第2~8回は、グループワークを取り入れながら講義を中心に行います。また、第9、10回では、関心のある社会的課題について、受講者にプレゼンテーションをしてもらいます。第11回以降は、グループごとにテーマを設定し、調査・報告を行います。 なお、この科目は全回対面授業を行います。ただし、状況によっては、全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 第2~8回は毎回、授業内容に対応した課題を出題するので、それに取り組むようにしてください。第9、10回では、新聞記事を題材として、社会的課題についてプレゼンテーションをしてもらうので、早めその準備を進めておいてもらいたいと思います。また、第11回以降に行うグループでの調査・報告では、担当する作業に取り組むとともに、授業外でもグループごとに適宜、打ち合わせや意見交換等を行ってください。			
教科書・参考書等 教科書は指定しません。参考書については、授業時に適宜、指示します。			

オフィスアワー 月曜日12:30～13:30 (幸町南6号館5F)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席は厳禁です。また、3回以上欠席した場合は、単位を認定しません。
グループワークを多く取り入れる予定ですが、積極的に取り組むようにしてください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081301) 大学入門ゼミ E(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク	時間割 2021年度 前期火3 提供部局:大教センター DPコード:acd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 各クラスの課題1 メールの書き方 第12回 各クラスの課題2 論理的な文章の書き方 第13回 各クラスの課題3 効果的なプレゼンテーションの方法 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回~第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。本授業は対面授業により行う。但し、状況により遠隔授業に変更することがある。なお、対面授業と遠隔授業を併用する形は想定していない。			

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

必要な資料等についてその都度、配布する。

オフィスアワー 原則として講義終了時に対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

欠席する場合には事前もしくは事後（可能な限り事前に）必ず連絡すること。無断欠席は厳禁。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081302) 大学入門ゼミ E(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク	時間割 2021年度 前期火3 提供部局:大教センター DPコード:acd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 海野 晋悟	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 【対面】 第5回 図書館の使い方 【対面】 第6回 キャリアデザイン 【対面】 第7回 情報整理の方法 【対面】 第8回 外出研修 (フィールドワーク) 第9回 レポートの書き方 1 【遠隔】 第10回 レポートの書き方 2 【遠隔】 第11回 日本語技法その2 【遠隔】 第12回 プレゼンテーションの方法 1 【対面】 第13回 プレゼンテーションの方法 2 【対面】 第14回 パワーポイントを使った発表 【対面】 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ 【対面】			
*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合があります。フィールドワークを含む場合があります。 *第1回~第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形			

式を併用して実施する。

*この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、配布します。

オフィスアワー 火曜日の昼休み時間（12:10~12:50）です。ZOOMを使った、オンライン・オフィスアワーです。希望者は、事前にメールをください。ZOOMの入り口情報をお送りします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

丁寧に受講していれば、今後の勉学上の学生生活が非常に楽になりますし、有意義なものになります。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081303) 大学入門ゼミ E(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー</p> <p>授業形態 演習 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期金3</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acd</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 岡田 徹太郎</p>	<p>関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 授業90分×15回 + 自学自修 (準備学修30時間 + 事後学修30時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学修を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<p>1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループ・ワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学修に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」) に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」) に対応)</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 各クラスの課題1 第12回 各クラスの課題2 第13回 各クラスの課題3 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ</p> <p>* 授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 * 第1回~第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 * 上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。</p> <p>【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ダイアログ、グループ・ワークなどのアクティブ・ラーニング形式を併用して実施する。</p> <p>* この科目は基本的に対面授業で実施します。ただし、状況によって、全てまたは一部を対面または遠隔を</p>			

組み合わせながら進行する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学修する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学修においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

・資料については都度、配布する。

オフィスアワー 火曜日IV時限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大学での学びの第一歩を踏み出す重要な必修科目である。
無断欠席1回で即時不可とする。出欠について十分な注意を払うこと。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081304) 大学入門ゼミ E(4) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー</p> <p>授業形態 演習 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期火3</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acd</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 沖 公祐</p>	<p>関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<p>1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 各クラスの課題1 第12回 各クラスの課題2 第13回 各クラスの課題3 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ</p> <p>* 授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 * 第1回~第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 * 上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。</p> <p>【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。</p> <p>* この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授</p>			

業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

初回時に指定する。

オフィスアワー 初回時に指定する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大学入門ゼミではすべての授業に出席することが前提となる。その上で、グループワークなどに積極的に取り組む必要がある。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081305) 大学入門ゼミ E(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー</p> <p>授業形態 演習 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期火3</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acd</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 塩谷 剛</p>	<p>関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<p>1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>この科目は全回対面授業を行う。 なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p>【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 プレゼンテーション①準備 第12回 プレゼンテーション①報告会 第13回 プレゼンテーション②準備 第14回 プレゼンテーション②中間報告 第15回 プレゼンテーション②報告会</p> <p>*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回~第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。</p> <p>【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形</p>			

式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、配布する。

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業計画は暫定的なものであり、授業の進行状況等により変更される場合がある。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081306) 大学入門ゼミ E(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー</p> <p>授業形態 演習 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期金3</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acd</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1～</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 塩谷 剛</p>	<p>関連授業科目 情報リテラシーA・B</p>		
<p>学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<p>1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力)に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>この科目は全回対面授業を行う。 なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。</p> <p>【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 プレゼンテーション①準備 第12回 プレゼンテーション①報告会 第13回 プレゼンテーション②準備 第14回 プレゼンテーション②中間報告 第15回 プレゼンテーション②報告会</p> <p>*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。</p> <p>【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。</p>			

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、配布する。

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ることを。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

この授業計画は暫定的なものであり、授業の進行状況等により変更される場合がある。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081307) 大学入門ゼミ E(7) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期火3 提供部局: 大教センター DPコード: acd 単位数 2</p>	<p>対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 向 渝</p>	<p>関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。</p>			
<p>授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。</p>			
<p>到達目標</p>			
<p>1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 課題1 第12回 課題2 第13回 課題3 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ</p> <p>*授業計画は、担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。</p> <p>【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。 *この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。</p>			

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、配布する。

オフィスアワー 特に定めない。事前にe-mail等でアポイントメントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081308) 大学入門ゼミ E(8) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期金3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 高橋 昂輝	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目			
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。				
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。				
到達目標				
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)				
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク1: 情報収集から発表準備までの実践学習1 第12回 グループワーク2: 情報収集から発表準備までの実践学習2 第13回 グループワーク3: 情報収集から発表準備までの実践学習3 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。				
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。 *この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。				

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

特になし

オフィスアワー 金曜日5時限目（教員研究室）

*そのほか、事前に連絡をもらえれば、できる限り対応します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・不明点や理解に不十分な点などがある場合、そのままにせず、必ず教員に質問すること。
- ・正当な理由なき遅刻・欠席は、一切認められない。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081309) 大学入門ゼミ E(9) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期金3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 藤原 敦志	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目			
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)				
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。				
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。				
到達目標				
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)				
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
この科目は全回対面授業を行う。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性がある。				
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 英字週刊誌を用いてのグループワーク (1) 第12回 英字週刊誌を用いてのグループワーク (2) 第13回 英字週刊誌を用いてのグループワーク (3) 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ				
*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。				
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形				

式を併用して実施する。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

教科書は使用しない。

ハンドアウト資料をその都度、配布する。

またイギリスで発行されている英字週刊誌『The Economist』を用いてグループワークを行う。（この雑誌は経済研究所に配架されている。）

オフィスアワー 水曜日3時間目・4時間目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

とにかく授業に毎回出席することを目標にして頑張ってください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081310) 大学入門ゼミ E(10) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク	時間割 2021年度 前期火3 提供部局:大教センター DPコード:acd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 星野 良明	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク1 第12回 グループワーク2 第13回 グループワーク3 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回~第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、必要な資料を配布する。

オフィスアワー 火曜日 4時限目（南キャンパス 4号館 3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席・遅刻・授業中の迷惑行為等には厳しく対処する。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081311) 大学入門ゼミ E(11) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク	時間割 2021年度 前期金3 提供部局:大教センター DPコード:acd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 星野 良明	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク1 第12回 グループワーク2 第13回 グループワーク3 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回~第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、必要な資料を配布する。

オフィスアワー 火曜日 4時限目（南キャンパス 4号館 3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席・遅刻・授業中の迷惑行為等には厳しく対処する。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081312) 大学入門ゼミ E(12) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期金3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 松岡 久美	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目			
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。				
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。				
到達目標				
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)				
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 グループワーク (事例分析1) 第12回 グループワーク (事例分析2) 第13回 グループワーク (事例分析3) 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。				
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。 *この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更				

する可能性があります。

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、配布する。

オフィスアワー 月曜日 3 限（これ以外の時間帯は個別に対応）

研究室の場所：7 号館 3 階

*必ず事前にメールか口頭でアポイントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主体性をもって活動に取り組んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081313) 大学入門ゼミ E(13) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク	時間割 2021年度 前期火3 提供部局:大教センター DPコード:acd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 山崎 隆之	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 プレゼンテーション課題の作成 (グループワーク) 1 第12回 プレゼンテーション課題の作成 (グループワーク) 2 第13回 プレゼンテーション課題の作成 (グループワーク) 3 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回~第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。 ※この科目は全回対面授業を行う予定ですが、状況によって全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

【レポートやパワーポイント作成の課題図書】

東浩紀著『弱いつながり～検索ワードを探す旅～』（幻冬舎文庫）2016年

その他については、必要に応じて紹介・配布する。

オフィスアワー 火曜日 4時限目

山崎研究室（南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「大学入門ゼミ」はこれから4年間の大学での学びの基礎となる科目です。
意識的・意欲的に受講し、多くのことを経験・修得してください。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081314) 大学入門ゼミ E(14) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 演習 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期火3 提供部局: 大教センター DPコード: acd 単位数 2</p>	<p>対象年次 1～ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 横山 佳充</p>	<p>関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。</p>			
<p>授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。</p>			
<p>到達目標</p>			
<p>1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力) に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」(幅広いコミュニケーション能力、「市民としての責任感と倫理観」) に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」) に対応)</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 各クラスの課題1 第12回 各クラスの課題2 第13回 各クラスの課題3 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ</p> <p>*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *上記以外に、講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。</p> <p>【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。 *この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。</p>			

【自学自習に関するアドバイス】

このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。

その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

その都度、配布する。

オフィスアワー 第1回目に説明する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

課題の〆切に関しては守ってください。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081401) 大学入門ゼミ M(1) Startup Seminar on Academic Literacy 医療のなかの核酸 Applications of nucleic acid in medicine	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水1	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 :大教センター DPコード :acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 栗原 亮介	関連授業科目 履修推奨科目			
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 レポートの書き方やプレゼンテーションの技法など、これからの学生生活で必要となる基本的なスキルの習得を目的としています。また生物にとって重要な物質である核酸について取り上げ、医療のなかで核酸がどのように利用されているのか考えていきます。さらに、自分で考える力、自分の意見を述べる力およびディスカッションする力などが身につくように、グループワークやプレゼンテーションを実施する予定です。				
授業の目的 大学生活で必要となる基本的な学習スキルを身につける。また、核酸を機能性材料として扱い、その利用方法について学び境界領域に触れることで、広い視野で物事を捉える力を養う。				
到達目標				
1. 核酸の基礎および境界領域について理解し、説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. グループワークにおいて、自分で考え、自分の意見を述べ、ディスカッションすることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 3. 協力しながらプレゼンテーション資料を作成し、研究倫理に関する規範に則った方法で自ら発表することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。				
成績評価の方法と基準 出席と学習態度40%、グループワークへの参加度30%、プレゼンテーション30%				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 パワーポイントと配布資料を用いて講義を行います。またグループワークとプレゼンテーションを行います。第1回～6回は講義が中心となりますが、第7回～12回は講義とグループワークをおこない、第13回～15回はグループワークとプレゼンテーションを行います。 この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。				
【授業計画】 第1回 オリエンテーション 第2回 日本語の技法(1) 第3回 日本語の技法(2) 第4回 情報整理の方法 第5回 レポートの書き方 第6回 プレゼンテーションの方法とグループ分け 第7回 核酸の基礎と応用(1) 第8回 核酸の基礎と応用(2) 第9回 核酸の基礎と応用(3) 第10回 核酸の基礎と応用(4) 第11回 核酸の基礎と応用(5) 第12回 核酸の基礎と応用(6) 第13回 プレゼンテーション:課題決定と発表資料作成 第14回 プレゼンテーション:発表資料作成 第15回 プレゼンテーション:発表				
【自学自習のためのアドバイス】 第1回～12回は講義がありますので各回復習をすること。第7回～12回は講義後にグループワークを行いますので、第4回で学んだ「情報整理の方法」をしっかりと復習しておくこと。第13回～15回はグループワークとプレゼンテーションを行いますので、発表資料の作成に必要な資料収集は事前に行っておくこと。				
教科書・参考書等 資料を配布します。				

オフィスアワー 水曜日13時-17時、医学部講義棟2階206号室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081402)</p> <p>大学入門ゼミ M(2) Startup Seminar on Academic Literacy</p> <p>感染症と感染制御 (Infectious diseases and infection control)</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー</p> <p>授業形態 講義 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期水1</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acx</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 横平 政直, 坂東 修二</p>	<p>関連授業科目 感染症ユニット、医療管理学・診断学</p>		
<p>履修推奨科目</p>			
<p>学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習 (事前学習15時間+事後学習15時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は学生諸君が大学における学習に必要な基本的スキルを養いつつ、同時に感染症とその制御に関する知識を身につけることを目的としている。授業で養ったスキルを基に、様々な感染症とその制御方法についてグループワークを通して議論を深め、レポート作成やプレゼンテーションを実施してもらう。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>感染症という課題を通して自ら学ぶことはどういうことかを理解するとともに、そのために必要な各種の技法を習得できるようになる。 グループワークを通してお互いの意見を交換しながら、作業が進められるようになる。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら課題を抽出し、資料を調べ、論理的な結論を述べることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 感染症の感染様式とその防御策について説明できる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>ミニレポート25%、グループ発表25%、出席50%</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p><授業の方法> パワーポイント、配付資料を中心とした講義とグループワーク、及びプレゼンテーションが中心となる。 第 1~6回にかけて大学における基礎的素養としてのアカデミック・リテラシーを取り上げる。 第 7~11回にかけて感染症の基礎知識と考え方についての講義とグループワークを行う。 第12~15回にかけて感染症を題材に自ら調査し、グループ内で議論を深めた内容についてプレゼンテーションを行う。</p> <p><授業計画> 第 1回 自己紹介、ゼミナールのオリエンテーション 第 2回 情報整理の方法 第 3回 レポートの書き方 第 4回 日本語技法1 第 5回 日本語技法2 第 6回 プレゼンテーションの基本 第 7回 感染症の考え方 第 8回 感染様式と防御策 第 9回 肺炎と結核感染症 第10回 インフルエンザウイルス感染症とかぜ症候群 第11回 抗菌薬耐性菌 (MRSA) 感染症 第12回 優れたプレゼンテーションとは (感染症を題材に) 第13回 発表課題の決定とディスカッション 第14回 プレゼンテーション作成 第15回 プレゼンテーション発表</p> <p>この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては授業形態を一部、あるいは全て遠隔に変更する可能性があります。</p> <p><自学自習のためのアドバイス> 各回1時間程度の事前学習を行うこと。また事後学習も各回1時間程度行うこと。この科目では授業の性質上、ノートを取る技術にも重点を置いており、配布される資料は少ないので、自ら書き取ったノートをもとに事後学習を深めて頂くことになる。</p>			
<p>教科書・参考書等</p> <p>テーマ毎にプリントを配布します。</p>			

オフィスアワー 金曜日 14時～17時 医学部講義棟3階

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業は毎回出席をとります。15分以上の遅刻は欠席として扱います。
積極的な発言や質問を歓迎します。

教員の実務経験との関連

香川大学医学部附属病院 感染制御副部長としての実務経験を基にゼミを行います。

ナンバリングコード B1ACL-abcG-10-Lp2 授業科目名 (時間割コード:081403) 大学入門ゼミ M(3) Startup Seminar on Academic Literacy 医療分野におけるX線と放射線 Medical Use of X- and γ -rays	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水1	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 PBL	単位数 2		
担当教員名 久富 信之	関連授業科目 医用物理学 履修推奨科目			
学習時間 ゼミ90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 近年、医学分野で放射線は有力な検査・治療の手法となっています。本ゼミナールでは、X線や放射能についての基礎的な内容を調べ理解した上で、医学分野におけるX線や放射線の利用法や効果について学習・討論します。これらの学習を通し、研究倫理に関する規範に則った方法に関して学びます。				
授業の目的 自ら資料を調べたうえで、試行錯誤や議論を行うことを目的とします。具体的には、放射線に関連する資料をもとに放射線の種類や発生原理および、放射線の生体への影響および治療について資料をもとに課題解決能力を身に着けます。これにもとづいて、表現法を適切に理解し、自らの見解を文章や口頭で分かりやすく伝えることができることを到達目標とします。				
到達目標				
自ら資料を調べ、以下のような内容について試行錯誤し論理的な議論のもと適切な表現を用いて自らの見解を分かりやすく伝えながら、結論を導くことができる。加えて、放射線に関連する分野における現状を理解することを通して、課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。 1) 放射線の種類や発生原理。 2) 放射線の生物への影響。 3) 放射線による治療。				
成績評価の方法と基準 ゼミナール中の議論の積極性(50%)、理解度(40%)、レポート(10%)により総合的に評価します。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
第1回 医療分野でのX線と放射線について 第2-3回 X線発生の原理 第4回 検出器、 第5-6回 診断機器 第7回 画質 第8回 血管造影 第9-11回 CT 第12-15回 生体への影響 自学自習については、事前の予習が必須です。 授業方法は、対面を基本としますが、諸事情により遠隔とする場合があります。				
教科書・参考書等 資料を配布します。 参考書: [放射線生物学, 日本放射線技術学会, オーム社, 5000円]				
オフィスアワー 【物理】 久富 信之 月曜日終日、火曜日終日、水曜日2限目以降、木曜日終日				
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 英語で書かれた資料を読むことができる必要があります。				
教員の実務経験との関連 原子核物理学を背景に、国立研究センターおよび海外の国立病院附属研究センターにおいて核医学分野の研究開発に従事。				

ナンバリングコード B1ACL-abcG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081404) 大学入門ゼミ M(4) Startup Seminar on Academic Literacy 生物学におけるアカデミックリテラシー Academic Literacy in Biology	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期水1 提供部局:大教センター DPコード:abc 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 高橋 弘雄	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 本授業は、大学における学習に必要な基本スキルを養うことを目的としています。①情報整理の方法、②レポートの書き方、③日本語技法、④プレゼンテーションの方法などの、アカデミックリテラシーの習得を目指します。また、生命科学全般から、医学・生命科学研究に関わりをもつ内容を取り上げて、分子レベルから個体レベルまでの広範かつ基本的な観点から概観します。グループワークを行い、生命に関わるテーマに関するプレゼンテーションを実施してもらいます。			
授業の目的 本授業は、アカデミックリテラシーの習得を目的とします。また、広い視点で生命科学に対する基礎的な理解を深めるとともに、自ら能動的に取り組み、課題を発見できる能力を養います。グループワークにおいては、課題を考察し、自らの意見を分かりやすく他者に伝える能力の養成を目指します。			
到達目標			
(1)生命科学および生命の多様性にかんする基礎的な知見を概括し、人間と生命の関係性を、多面的な観点から説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (2)自らプレゼンテーションを行うことができる。その際に、研究倫理に関する機変に則った方法をとることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用スキル(幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小テスト・レポートの提出40%(到達目標(1)に対応)、発表の内容10%(特に到達目標(3)に対応)、出席状況50%で評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業計画] 第1回:ゼミナールのオリエンテーション 第2回:情報整理の方法 第3回:レポートの書き方 第4回:日本語技法1 第5回:日本語技法2 第6回:プレゼンテーションの方法 第7回:生物の基礎・生物多様性 第8回:生物の基礎・生物多様性 第9回:発生学・発生工学 第10回:発生学・発生工学 第11回:グループによるプレゼンテーション①作成 第12回:グループによるプレゼンテーション①発表 第13回:グループによるプレゼンテーション②作成 第14回:グループによるプレゼンテーション②発表 第15回:プレゼンテーションのまとめ・予備日			
[授業の形態・方法] この科目は全回対面授業を行います。パワーポイント・配布資料を中心とした講義・参加型学習および演習が中心となります。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
[自学自習に関するアドバイス] 第1~10回:前回の授業に関する事柄を復習する。 第11~14回:グループ別の発表の準備を行う。自身のグループの発表を振り返り、良かった点や改善点を考える。他のグループの発表を比較して、考察する。 第15回:全般についての総復習を行う			
教科書・参考書等 各回に必要な資料を配布します。必要に応じて、参考図書・文献・web上の情報等を示します。			
オフィスアワー オフィス:医学キャンパス講義棟2階 分子神経生物学ゼミナール室 オフィスアワー:月~水 午後			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席を取ります。欠席した際には、資料等を受取に来てください。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード:081405) 大学入門ゼミ M(5) Startup Seminar on Academic Literacy 日本語の技法と情報倫理 Presentation techniques and Information literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水1	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義	単位数 2		
担当教員名 藤井 豊, 石上 悦子, 辻 京子	関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目 看護学入門			
学習時間 講義90分 x 8回と演習90分 x 7回+ 自主学习(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 ①大学生・社会人としての責任感や協調性のある態度を教えます。 ②大学の授業を受けるために必要な技術や常識を教えます。 ③以上の内容を統合して、高校までの受動的学習から、大学での参加型・能動型学習への転換と導入について教えます。 具体的には情報の取り方、日本語やプレゼンテーションの技法、ネット接続の倫理・常識等で、これらの内容を学び、4年間の学習に活用できます。				
授業の目的 他の全学共通科目と協働して、新入生が大学での参加型・能動的学習へのスムーズな移行を支援すると共に、学生の課題探究能力を高めることを目標としている。(これらは共通スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) (a、b)、将来の医療者として必要な患者との接し方や患者を取り巻く医療や保険制度の基本的な仕組みに関する基本的知識を身につける(共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) (c)。				
到達目標				
パワーポイントを用いて学習内容を発表できる。 インターネットに安全に接続できる。 医療人としての常識を身につける。				
成績評価の方法と基準 講義毎に出席レポートを提出し、それにより評価します。 期末テストは行いません。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
第1回 オリエンテーションとレポート作成の要点(講義) 第2回 日本語の技法1(講義) 第3回 日本語の技法2(講義) 第4回 難病の公的支援と社会保障制度1(講義) 第5回 難病の公的支援と社会保障制度2(講義) 第6回 インターネット使用の常識(講義) 第7回 文献検索の方法(講義、演習) 第8回 情報整理の方法(講義) 第9回 プレゼンテーション(講義) 第10回 病院見学と患者との会話、課題発表の準備1(演習) 第11回 病院見学と患者との会話、課題発表の準備2(演習) 第12回 病院見学と患者との会話、課題発表の準備3(演習) 第13回 病院見学と患者との会話、課題発表の準備4(演習) 第14回 学習成果の発表1(演習) 第15回 学習成果の発表2(演習)				
この科目は、基本的に対面授業を行いますが、一部の授業回ではWebを利用した授業を行います。なお新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、オンデマンド講義に変更しますが、その場合には医学部授業収録システムを用います。				
医学部の学生のみが履修する科目なので、連絡はドリームキャンパスではなく、WebClassを使います。事前学習課題が出る場合があるので、その内容やレポートの締め切りを、必ずWebClassで確認してください。 講義により、レポート提出の方法が異なります。				
教科書・参考書等 特にありません。				
オフィスアワー 新型コロナウイルス感染症の流行により、キャンパス内への立ち入りが禁止になる場合があります。 質問は、WebClassに指定したメールアドレスに送る形で受け付けます。				

対面での回答が必要な場合は、メールでアポイントを取ってください。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

医学部学生のみを対象としているので、連絡はドリームキャンパスではなく、WebClassを使います。
新型コロナウイルスの流行状況によっては、演習は病院内に入らずに実施する場合があります。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081406) 大学入門ゼミ M(6) Startup Seminar on Academic Literacy 双方向学習のスキルアップ Trying to mutually improve the learning skills	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 渡邊 久美, 松本 啓子, 市原 多香子	関連授業科目 学習の基本に関する授業科目		
	履修推奨科目 人間理解に関連する授業科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (受講時に提示する課題へのレポート提出、事前学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 大学で学ぶために必要な基本的な学習態度と方法、すなわち話し言葉と記述言語の使い方、ノートのとり方、レポートの書き方、コミュニケーション、プレゼンテーション技法などについて、講義と演習および自学自習を通して学び、自尊自立した大学生の基礎を涵養する。			
授業の目的 1. 大学生の倫理的態度と履修上のマナーを習得する。 2. 学習者に必要な基本的学習スキルを習得する。 3. より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションを体験する。			
到達目標			
到達目標 1. 授業に出席する学生のマナーを理解し、医療者に必要な倫理的態度を習得できる。(共通教育スタンダードの市民としての責任感と倫理に対応) 2. 学習者に必要な基本的学習スキルを操作できる。(共通教育スタンダードの21世紀社会の諸課題に対する探求能力に対応) 3. より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションを実施できる。(共通教育スタンダードの幅広いコミュニケーション能力に対応)			
成績評価の方法と基準 評価資料 1. 学習態度 (出席を含む) 20% 2. 参加度 30% 3. 成果物 (試験と同等に扱う) 50%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業は、「講義」と「演習」で構成されています。 少人数でのグループワークも取り入れます。演習での成果物は、評価資料となります。 実施形態 (対面/遠隔) は状況に応じてweb class を通じて事前に連絡しますが、遠隔の場合はZoomを使ったリアルタイムでのグループワークも取り入れます。オンラインでのグループワークの進め方も慣れていってください。			
第1週 ガイダンス、アイスブレイキング (渡邊) (Zoomミーティング担当: 蔵本) 第2週 情報の整理①ノートの取り方について 第3週 情報の整理②ループブック・ポートフォリオについて 第4週 レポートの書き方①21世紀社会のストレス問題の課題探求(1) 第5週 レポートの書き方②21世紀社会のストレス問題の課題探求(2) 第6週 日本語技法①日本語の話し言葉・書き言葉、電子メールの新リテラシー 第7週 日本語技法②日本語の敬語、連絡・相談・報告の日本語 第8週 日本語技法③エビデンスと推敲の技法 第9週 日本語技法④アサーティブなディベート手法 第10週 日本語技法⑤ディベートの体験と評価 第11週 プレゼンテーション技法①グループ学習: 討議法 第12週 プレゼンテーション技法②グループ学習: KJ法 第13週 プレゼンテーション技法③プレゼンテーションスキル 第14週 プレゼンテーション技法④プレゼンテーションスキル 第15回 プレゼンテーション技法⑤課題報告、プレゼンテーションの体験と評価			
【自学自習に関するアドバイス】 第1週 遅刻しないで授業に参加し、今後の授業の参加態度を確認する。状況に応じた香川大学の自己紹介を検討する。 第2週 情報とは何かを考える。大学での学習課題を、いくつかの要素に分けて考える。医療系学生として			

望ましい生活態度について検討し、セルフアセスメントを行う。

第3週 いくつかの現代的課題に関する提示テーマから選択して、素材を集める。理想的な学習姿勢、態度を段階評価してみる。

第4週 意見交換を踏まえ、自分の生活体験と関連付けた意見をレポートにまとめる。課題に応じた文献の検索と引用を正しく行う。

第5週 相互評価により、レポート評価のルーブリックを作成してみる。各自が作成した視点を統合して、グループ毎にまとめたものについて、全体発表を行う。

第6週 日本語の話し言葉、書き言葉、メールリテラシーを演習を通して理解する。

第7週 日本語と文化的背景、国際社会の中における日本人の言葉リテラシーを考える。

第8週 意見交換を踏まえ、自分の体験と関連付けた意見をレポートにまとめる。

第9週 ディベートの体験に向けて、アサーティブな会話について意見をレポートにまとめる。

第10週 グループで相互に意見交換を通して、全体評価を行う。

第11週 話し合いの技法を演習を通して理解する。

第12週 KJ法を演習を通して理解する。

第13週 プレゼンテーション題材を決める。

第14週 プレゼンテーションの資料を作成する。

第15週 プレゼンテーションとピア評価、まとめ

教科書・参考書等

各講義で必要な資料は配付する。

オフィスアワー 授業日、授業終了後、18:30まで。

1-5回担当 医学部精神看護学 渡邊 久美（教授）医学部看護学教育研究棟
616室 電話 087-891-2245

6-10回担当 医学部在宅看護学 松本 啓子（教授）医学部看護学教育研究棟
619室 電話 087-891-2346

11-15回担当 急性期成人看護学 市原多香子（教授）医学部看護学教育研究棟
319室 電話 087-891-2237

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

入門ゼミは、8:50から始業です。三木町キャンパスは駐車場が朝から混雑します。対面授業の場合は、時間に余裕をもって、遅刻しないようご注意ください。遠隔授業の場合も、基本的にはリアルタイムで行う予定ですので、事前にネット環境の準備をお願いします。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081407) 大学入門ゼミ M(7) Startup Seminar on Academic Literacy 医療における心理学 Psychology in the medical	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期水1 提供部局:大教センター DPコード:acb 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 川人 潤子, 野口 修司	関連授業科目 履修推奨科目 心理学		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、大学生活で必要不可欠な基礎的学習スキルの獲得を目指します。また、心理学の基礎的概念を理解しつつ、医療分野における心理学の意義についてみなさんとともに考えていきます。			
授業の目的 大学生活を円滑に始められるようにするため、レポート課題や発表を通して、情報収集スキルやプレゼンテーションスキルなどの基礎的学習スキルを身に付けます。また、心理学に基づいたコミュニケーション理論を理解するとともに、それを日常生活に活用するための技術を磨きます。			
到達目標			
1. 学術文献等を収集し、その要点をまとめて発表資料を作ることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. プレゼンテーションソフト等を用いて研究倫理を踏まえた発表をすることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「幅広いコミュニケーション能力」に対応)。 3. 心理学の基礎的概念について説明することができる(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 他の聴講生や教員と積極的にコミュニケーションをとることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「幅広いコミュニケーション能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 受講態度 20%(特に到達目標4に対応)、レポート 40%(特に到達目標1, 3に対応)、発表 40%(特に到達目標1, 2に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション:自己紹介等 第2回 日本語表現および手紙・電子メールの書き方 第3回 情報収集の方法とまとめ方(図書館の使い方・インターネットでの情報収集) 第4回 レポートの書き方:レポートの形式と特徴の理解 第5回 レポート「心理学とは」1:レポートの作成 第6回 レポート「心理学とは」2:レポートの校正 第7回 社会で役立つコミュニケーション・スキル 第8回 医学部生が知っておくべき「守秘義務」と「研究倫理」 第9回 プレゼンテーションの技法およびソフトの使い方 第10回 プレゼンテーション「医療における心理学」1:プレゼンテーションの課題説明およびグループ分け 第11回 プレゼンテーション「医療における心理学」2:プレゼンテーションの構成の検討 第12回 プレゼンテーション「医療における心理学」3:プレゼンテーション資料の作成 第13回 プレゼンテーション「医療における心理学」4:プレゼンテーション資料の校正 第14回 プレゼンテーション「医療における心理学」5:発表 第15回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 第1回は川人・野口、第2回~第8回は川人、第9回~15回は野口が担当します。 授業は講義および演習形式です。前半8回は講義を中心に進めますが、適宜グループワークを取り入れます。後半7回ではグループによるプレゼンテーション課題が主となり、発表に向けて段階的に準備を進めていきます。 この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する場合があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 第5, 6回 心理学の領域や歴史などを各自が調べて、レポートにまとめてください。なお、必要な資料の収集等については事前に準備してください。(20時間) 第11-14回 プレゼンテーションの準備をグループ内で円滑に進めるため、必要な資料の収集等については事前に準備してください。(40時間)			

教科書・参考書等

各回で必要な資料を配布します。

オフィスアワー 川人：三木キャンパス講義棟3階 火曜日昼休み
野口：三木キャンパス講義棟3階 水曜3時限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業は毎回出欠をとります。15分以上遅刻は欠席とみなします。なお、病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081501) 大学入門ゼミ T(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期水3 提供部局:大教センター DPコード:acx 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 井藤 隆志, 柴田 悠基	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。また、情報リテラシーと連携して、情報倫理について踏み込んだ内容を講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式だけでなくグループワークの形式も取り入れる。また、時間外のe-Learningを活用する場合もある。			
授業の目的 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識として、ノートテキング手法、学術文書の基本的な記述方法、研究倫理や情報倫理に則った情報発信方法などを学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 6. 高度情報化社会に生きる人間としての情報倫理を身につけることができる。 7. 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか説明できる。			
※到達目標 1.~6. は共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。			
成績評価の方法と基準 毎回の課題20点(満点)×15回の合計の1/3で評価し、60点以上を合格とする。期末テストは実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は全学共通コンテンツ(コース別に授業)および創造工学部共通コンテンツ(全コースで授業)を中心に授業を行う。後半は、適宜グループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報を整理する ~ノートテキングの勘所~(コース) 第6週 情報を発信する ~レポート・プレゼンテーションの勘所~(コース) 第7週 履修方法を深く理解する(コース) 第8週 情報倫理を考える(コース) 第9週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(1)(コース) 第10週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(2)(コース) 第11週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(3)(コース) 第12週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(4)(コース) 第13週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(5)(コース) 第14週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(6)(コース) 第15週 大学入門ゼミのまとめ(コース)			
※この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 ※授業進行の状況などにより、授業の順番が入れ替わる場合や内容を調整する場合もある。その場合は事前に連絡するので、授業内およびLMS(香川大学Moodle)におけるアナウンスに注意すること。 ※造形・メディアデザインコースで何を学ぶかは各回でコース教員が2名ずつ、アートとデザインなど様々			

な観点で造形・メディアデザインコースでの「学び」を講義する。
※大学入門ゼミの授業の一部を新入生合宿と連携して実施する場合もある。

【自学自習に関するアドバイス】

他の科目と異なり、様々な形態で授業が進行するので、事前に次回の授業概要を必ず確認すること。また、授業に関する情報はLMS（香川大学Moodle）の掲示版機能などを用いアナウンスするので定期的に確認すること。

各回において準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトなどの資料を見て不明な点などの事前調査などです。事後学習は授業から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。テーマごとに必要な資料をLMS上で電子配布する。

オフィスアワー 日時：金曜1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

不在時は電子メールで対応：ifuji.takashi@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「情報リテラシー」の履修を前提として授業を実施するので「情報リテラシー」もしっかり履修してください。また、ノートPCを利用する回もあるので注意ください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081502) 大学入門ゼミ T(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 柴田 悠基, 井藤 隆志	関連授業科目 情報リテラシー		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。また、情報リテラシーと連携して、情報倫理について踏み込んだ内容を講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式だけでなくグループワークの形式も取り入れる。また、時間外のe-Learningを活用する場合もある。			
授業の目的			
大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識として、ノートテーキング手法、学術文書の基本的な記述方法、研究倫理や情報倫理に則った情報発信方法などを学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 6. 高度情報化社会に生きる人間としての情報倫理を身につけることができる。 7. 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか説明できる。			
※到達目標 1.～6. は共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。			
成績評価の方法と基準			
毎回の課題20点(満点)×15回の合計の1/3で評価し、60点以上を合格とする。期末テストは実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】			
前半は全学共通コンテンツ(コース別に授業)および創造工学部共通コンテンツ(全コースで授業)を中心に授業を行う。後半は、適宜グループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】			
第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース)			
第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体)			
第3週 キャンパスライフの心得(全体)			
第4週 図書館を上手に利用する(全体)			
第5週 情報を整理する ～ノートテーキングの勘所～(コース)			
第6週 情報を発信する ～レポート・プレゼンテーションの勘所～(コース)			
第7週 履修方法を深く理解する(コース)			
第8週 情報倫理を考える(コース)			
第9週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(1)(コース)			
第10週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(2)(コース)			
第11週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(3)(コース)			
第12週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(4)(コース)			
第13週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(5)(コース)			
第14週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(6)(コース)			
第15週 大学入門ゼミのまとめ(コース)			
※この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
※授業進行の状況などにより、授業の順番が入れ替わる場合や内容を調整する場合もある。その場合は事前に連絡するので、授業内およびLMS(香川大学Moodle)におけるアナウンスに注意すること。			
※造形・メディアデザインコースで何を学ぶかは各回でコース教員が2名ずつ、アートとデザインなど様々			

な観点で造形・メディアデザインコースでの「学び」を講義する。
※大学入門ゼミの授業の一部を新入生合宿と連携して実施する場合もある。

【自学自習に関するアドバイス】

他の科目と異なり、様々な形態で授業が進行するので、事前に次回の授業概要を必ず確認すること。また、授業に関する情報はLMS（香川大学Moodle）の掲示版機能などを用いアナウンスするので定期的に確認すること。

各回において準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトなどの資料を見て不明な点などの事前調査などです。事後学習は授業から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。テーマごとに必要な資料をLMS上で電子配布する。

オフィスアワー 日時：金曜1時限目

場所：幸町北キャンパス研究交流棟4階教員室

不在時は電子メールで対応：ifuji.takashi@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「情報リテラシー」の履修を前提として授業を実施するので「情報リテラシー」もしっかり履修してください。また、ノートPCを利用する回もあるので注意ください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081503) 大学入門ゼミ T(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局:大教センター DPコード: acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 吉田 秀典, 宮本 慎宏, 釜床 美也子	関連授業科目 情報リテラシーA	履修推奨科目	
学習時間 講義90分×15回+ 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 はじめに、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていく上で最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得します。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。特に、現状を正しく認識すること、解決すべき課題を見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、研究についての倫理を理解すること、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを行います。			
授業の目的 「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点とし、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自ら設定したうえで取り組むものもあります。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行います。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行います。 ※授業形態は、基本は対面ですが、状況によっては一部の回を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1週 ガイダンス(授業の目的・計画) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(学部共通) 第3週 キャンパスライフの心得(学部共通) 第4週 図書館を上手に利用する(学部共通) 第5週 本コースで学ぶこと(コース:新入生研修) 第6週 主体性と協調性を養う(コース:新入生研修) 第7週 日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方(コース) 第8週 レポートの書き方、プレゼンテーション技術(コース) 第9週 伝えたいことが相手に伝わっているか(コース) 第10週 グループワーク1(クラス別) 第11週 グループワーク2(クラス別) 第12週 グループワーク3(クラス別)			

第13週 グループワーク 4 (クラス別)

第14週 グループワーク成果発表、意見交換 (クラス別)

第15週 まとめ (コース)

※授業の順番が入れ替わる可能性があります。その場合には事前に告知します。

【自学自習に関するアドバイス】

第2～4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。

第5～9週 授業時に提示されたレポートを作成する。

第10～13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。

第14週 発表に関する自己評価、他者評価を分章としてまとめる。

第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容(大まかでよい)と希望日時(いくつかの候補)を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在は以下のとおりです。

・吉田秀典：創造工学部2号館5階(南)

・宮本慎宏：創造工学部2号館3階(北)

・釜床美也子：創造工学部2号館5階(南)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081504) 大学入門ゼミ T(4) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水2	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 宮本 慎宏, 吉田 秀典, 釜床 美也子	関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目			
学習時間 講義90分×15回+ 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 はじめに、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていく上で最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得します。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。特に、現状を正しく認識すること、解決すべき課題を見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、研究についての倫理を理解すること、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを行います。				
授業の目的 「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。				
到達目標				
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)				
成績評価の方法と基準 授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点とし、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自ら設定したうえで取り組むものもあります。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行います。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行います。 ※授業形態は、基本は対面ですが、状況によっては一部の回を遠隔へ変更する可能性があります。				
【授業計画】 第1週 ガイダンス(授業の目的・計画) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(学部共通) 第3週 キャンパスライフの心得(学部共通) 第4週 図書館を上手に利用する(学部共通) 第5週 本コースで学ぶこと(コース:新入生研修) 第6週 主体性と協調性を養う(コース:新入生研修) 第7週 日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方(コース) 第8週 レポートの書き方、プレゼンテーション技術(コース) 第9週 伝えたいことが相手に伝わっているか(コース) 第10週 グループワーク1(クラス別) 第11週 グループワーク2(クラス別)				

第12週 グループワーク 3 (クラス別)
第13週 グループワーク 4 (クラス別)
第14週 グループワーク成果発表、意見交換 (クラス別)
第15週 まとめ (コース)

※授業の順番が入れ替わる可能性があります。その場合には事前に告知します。

【自学自習に関するアドバイス】

第2～4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。

第5～9週 授業時に提示されたレポートを作成する。

第10～13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。

第14週 発表に関する自己評価、他者評価を分章としてまとめる。

第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容(大まかでよい)と希望日時(いくつかの候補)を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在は以下のとおりです。

- ・吉田秀典：創造工学部2号館5階(南)
- ・宮本慎宏：創造工学部2号館3階(北)
- ・釜床美也子：創造工学部2号館5階(南)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081505) 大学入門ゼミ T(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー</p> <p>授業形態 講義 グループワーク</p>	<p>時間割 2021年度 前期水2</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acx</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 釜床 美也子, 吉田 秀典, 宮本 慎宏</p>	<p>関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 講義90分×15回+ 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>はじめに、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていく上で最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得します。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。特に、現状を正しく認識すること、解決すべき課題を見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、研究についての倫理を理解すること、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを行います。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。</p>			
<p>到達目標</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点とし、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業の方法】</p> <p>授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行います。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行います。</p> <p>※授業形態は、基本は対面ですが、状況によっては一部の回を遠隔へ変更する可能性があります。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1週 ガイダンス(授業の目的・計画) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(学部共通) 第3週 キャンパスライフの心得(学部共通) 第4週 図書館を上手に利用する(学部共通) 第5週 本コースで学ぶこと(コース:新入生研修) 第6週 主体性と協調性を養う(コース:新入生研修) 第7週 日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方(コース) 第8週 レポートの書き方、プレゼンテーション技術(コース) 第9週 伝えたいことが相手に伝わっているか(コース) 第10週 グループワーク1(クラス別) 第11週 グループワーク2(クラス別)</p>			

第12週 グループワーク 3 (クラス別)
第13週 グループワーク 4 (クラス別)
第14週 グループワーク成果発表、意見交換 (クラス別)
第15週 まとめ (コース)

※授業の順番が入れ替わる可能性があります。その場合には事前に告知します。

【自学自習に関するアドバイス】

第2～4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。

第5～9週 授業時に提示されたレポートを作成する。

第10～13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。

第14週 発表に関する自己評価、他者評価を分章としてまとめる。

第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介します。

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容(大まかでよい)と希望日時(いくつかの候補)を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在は以下のとおりです。

- ・吉田秀典：創造工学部2号館5階(南)
- ・宮本慎宏：創造工学部2号館3階(北)
- ・釜床美也子：創造工学部2号館5階(南)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081506) 大学入門ゼミ T(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (防災・危機管理コース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水2	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 竹之内 健介	関連授業科目 情報リテラシー			
	履修推奨科目 情報リテラシー			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識など、大学において必要とされる基本的な知識や技術を学習する。講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。				
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎的な知識や技術を学習する。実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。				
到達目標				
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 ※ いずれも共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応				
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート (概要版) 10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 前半は、全学共通コンテンツ (コース別に授業) および創造工学部共通コンテンツ (学部全体で授業) を中心に授業を行う。後半は、課題探求授業としてプレゼンテーションやレポート作成の練習を行う。この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。				
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー (コース) 第02週 図書館を上手に利用する (全体) 第03週 理系の基礎知識を用いた交通捜査 (全体) 第04週 被害者や加害者にならないための心構え (全体) 第05週 キャンパスライフの心得 (全体) 第06週 アイスブレイキングと自己紹介、コースで学ぶこと (コース) 第07週 情報整理の方法 (コース) 第08週 日本語技法その1 (コース) 第09週 日本語技法その2 (コース) 第10週 レポートの書き方 (コース) 第11週 プレゼンテーションの方法 (コース) 第12週 グループワーク (グループ) 第13週 グループワーク (グループ) 第14週 プレゼンテーション実践 (グループ) 第15週 まとめ (コース) ※授業の順番が入れ替わることもある。その都度、学内掲示等するので注意すること。				
【自学自習に関するアドバイス】 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(3時間) 第02～05週 講義内容に関するレポートを作成する。(12時間) 第06～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(18時間) 第12～13週 課題に関する資料を作成する。(14時間)				

第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(5時間)

第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。(5時間)

教科書・参考書等

テーマごとに授業資料を提供する。

オフィスアワー 前期・水曜日 12:20-12:50、林町キャンパス8号館2階 個人研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認します。積極的に自主的に行動するように習慣づけてください。相談事項があれば、適宜Eメールなどで受け付けます。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081507) 大学入門ゼミ T(7) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ T(7) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 前期水2 提供部局:大教センター DPコード:acx 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 最所 圭三, 八重樫 理人	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し, 講義形態は内容に応じて, 講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査, 取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報通信コースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第02週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第03週 キャンパスライフの心得(全体) 第04週 図書館を上手に利用する(全体) 第05週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと(コース) 第06週 情報整理の方法(コース) 第07週 日本語技法その1(コース) 第08週 日本語技法その2(コース) 第09週 レポートの書き方(コース) 第10週 eメールの書き方・実践(コース) 第11週 プレゼンテーションの方法(コース) 第12週 グループワーク(グループ) 第13週 グループワーク(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第02~04週 講義内容に関するレポートを作成する。 第05~11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。 第12~13週 課題に関する資料を作成する。 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。 第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。			

【その他】

この科目は基本的に遠隔授業で行います。なお状況によっては授業形態を変更する可能性があります。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 12:20～12:50、林町キャンパス1号館10階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・情報システム・セキュリティコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(7)かT(8)を履修すること
- ・毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081508) 大学入門ゼミ T(8) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ T(8) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水2	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 八重樫 理人, 最所 圭三	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー			
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習				
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し, 講義形態は内容に応じて, 講義形式や少人数グループワークの形式とする。				
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。				
到達目標				
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査, 取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。				
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%, レポート40%, プレゼンテーション20%, 最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお, 初回を除くコース別の授業は, 情報通信コースと合同で行う。後半は, 20名程度のCAグループに分かれて, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。				
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第02週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第03週 キャンパスライフの心得(全体) 第04週 図書館を上手に利用する(全体) 第05週 アイスブレイキングと自己紹介, 学科で学ぶこと(コース) 第06週 情報整理の方法(コース) 第07週 日本語技法その1(コース) 第08週 日本語技法その2(コース) 第09週 レポートの書き方(コース) 第10週 eメールの書き方・実践(コース) 第11週 プレゼンテーションの方法(コース) 第12週 グループワーク(グループ) 第13週 グループワーク(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度, 学内掲示等するので注意すること。				
【自学自習に関するアドバイス】 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第02～04週 講義内容に関するレポートを作成する。 第05～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。 第12～13週 課題に関する資料を作成する。 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。 第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。				

【その他】

この科目は基本的に遠隔授業で行います。なお状況によっては授業形態を変更する可能性があります。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 12:20～12:50、林町キャンパス1号館10階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・情報システム・セキュリティコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(7)かT(8)を履修すること
- ・毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081509) 大学入門ゼミ T(9) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (情報通信コース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水2	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 堀川 洋, 藤本 憲市	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー			
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。				
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。				
到達目標				
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルに対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルに対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルに対応) 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルに対応) 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)				
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報システム・セキュリティコースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。				
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと(新入生合宿)(コース) 第6週 情報整理の方法(コース) 第7週 日本語技法その1(コース) 第8週 日本語技法その2(コース) 第9週 レポートの書き方(コース) 第10週 eメールの書き方・実践(コース) 第11週 プレゼンテーションの方法(コース) 第12週 グループワーク(グループ) 第13週 グループワーク(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。				

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。
- 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。
- 第5～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
- 第12～13週 課題に関する資料を作成する。
- 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。
- 第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。

対面授業を行うか遠隔授業を行うかは現状では決定出来ない。学期開始時まで連絡する。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 堀川 水曜日12:00～13:00、創造工学部1号館7階 研究室
藤本 火曜日16:30～17:00、創造工学部1号館7階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

情報通信コースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(9)かT(10)を履修すること。
毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081510) 大学入門ゼミ T(10) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (情報通信コース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 藤本 憲市, 堀川 洋	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとおり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとおり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとおり方ができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルに対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルに対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルに対応) 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの言語運用能力/課題解決のための汎用的スキルに対応) 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報システム・セキュリティコースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと(新入生合宿)(コース) 第6週 情報整理の方法(コース) 第7週 日本語技法その1(コース) 第8週 日本語技法その2(コース) 第9週 レポートの書き方(コース) 第10週 eメールの書き方・実践(コース) 第11週 プレゼンテーションの方法(コース) 第12週 グループワーク(グループ) 第13週 グループワーク(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。			

第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。
第5～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
第12～13週 課題に関する資料を作成する。
第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。
第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。

対面授業を行うか遠隔授業を行うかは現状では決定出来ない。学期開始時まで連絡する。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 堀川 水曜日12:00～13:00、創造工学部1号館7階 研究室

藤本 火曜日16:30～17:00、創造工学部1号館7階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

情報通信コースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(9)かT(10)を履修すること。
毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081511) 大学入門ゼミ T(11) Startup Seminar on Academic Literacy Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 北御門 雄大, 佐藤 敬子, 鈴木 桂輔	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー			
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)				
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。				
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。				
到達目標				
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応				
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う。 後半は、担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。 前半は遠隔(オンデマンドあるいはオンライン)、後半は対面で実施する予定だが、状況によって変更する場合がある。				
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報整理の方法(コース) 第6週 レポートの書き方(コース) 第7週 日本語技法その1(コース) 第8週 日本語技法その2(コース) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース) 第10週 グループワーク実習(コース) 第11週 グループワーク実習(コース) 第12週 グループワーク実習(コース) 第13週 プレゼンテーション実践(コース) 第14週 プレゼンテーション実践(コース) 第15週 まとめ(学科) (※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。)				
【自学自習に関するアドバイス】 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。				

第5～6週 各自のノートを整理する。
第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
第10～14週 課題に関する資料を作成する。
第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 北御門 雄大 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号館3階1310研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081512) 大学入門ゼミ T(12) Startup Seminar on Academic Literacy Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 佐藤 敬子, 北御門 雄大, 鈴木 桂輔	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う。 後半は、担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。 前半は遠隔(オンデマンドあるいはオンライン)、後半は対面で実施する予定だが、状況によって変更する可能性がある。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報整理の方法(コース) 第6週 レポートの書き方(コース) 第7週 日本語技法その1(コース) 第8週 日本語技法その2(コース) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース) 第10週 グループワーク実習(コース) 第11週 グループワーク実習(コース) 第12週 グループワーク実習(コース) 第13週 プレゼンテーション実践(コース) 第14週 プレゼンテーション実践(コース) 第15週 まとめ(学科) (※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。)			
【自学自習に関するアドバイス】 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。			

第5～6週 各自のノートを整理する。
第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
第10～14週 課題に関する資料を作成する。
第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 佐藤敬子 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号館4階1414研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。
毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081513) 大学入門ゼミ T(13) Startup Seminar on Academic Literacy Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 鈴木 桂輔, 北御門 雄大, 佐藤 敬子	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「課題解決のための汎用的スキル」に対応			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う。 後半は、担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。 この科目は全て対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報整理の方法(コース) 第6週 レポートの書き方(コース) 第7週 日本語技法その1(コース) 第8週 日本語技法その2(コース) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース) 第10週 グループワーク実習(コース) 第11週 グループワーク実習(コース) 第12週 グループワーク実習(コース) 第13週 プレゼンテーション実践(コース) 第14週 プレゼンテーション実践(コース) 第15週 まとめ(学科) (※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。)			
【自学自習に関するアドバイス】 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。			

第5～6週 各自のノートを整理する。
第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
第10～14週 課題に関する資料を作成する。
第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 鈴木桂輔 水曜 12:00～13:00(創造工学部1号館4階1413研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081514) 大学入門ゼミ T(14) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 上村 忍, 掛川 寿夫, 小野 貴史	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)				
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.				
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.				
到達目標				
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。				
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス (20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.				
【授業形態】 本講義は全回対面で実施します. なお状況によっては, 一部の講義を遠隔へ変更する可能性があります. その場合は学内掲示もしくはメール (DreamCampusなど) で連絡をするので, こまめに確認すること.				
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース毎) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体) 第5週 情報整理の方法(コース毎) 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎) 第7週 日本語技法その1(コース毎) 第8週 日本語技法その2(コース毎) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎) 第10週 グループワーク実習(グループ) 第11週 グループワーク実習(グループ) 第12週 グループワーク実習(グループ) 第13週 プレゼンテーション実践(グループ)				

第14週 プレゼンテーション実践(グループ)

第15週 まとめ(コース毎)

*授業の順番が入れ替わる可能性もある. その都度, 学内掲示もしくはメール (DreamCampusなど) で連絡をするので, 確認を怠らないこと.

【自主学習に関するアドバイス】

第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる (5時間)

第2~4週 講義の内容に関するレポートを作成する (15時間)

第5~6週 各自のノートを整理する (10時間)

第7~9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する (10時間)

第10~14週 課題に関する資料を作成する (15時間)

第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる (5時間)

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず, テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する.

オフィスアワー 小野:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階2814室)

上村:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階2817室)

掛川:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階2803室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する. 本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが, 受け身で授業に臨むのではなく, 本授業を通し, 積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である.

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081515) 大学入門ゼミ T(15) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 掛川 寿夫, 上村 忍, 小野 貴史	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)				
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.				
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.				
到達目標				
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。				
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス (20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.				
【授業形態】 本講義は全回対面で実施します. なお状況によっては, 一部の講義を遠隔へ変更する可能性があります. その場合は学内掲示もしくはメール (DreamCampusなど) で連絡をするので, こまめに確認すること.				
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース毎) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体) 第5週 情報整理の方法(コース毎) 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎) 第7週 日本語技法その1(コース毎) 第8週 日本語技法その2(コース毎) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎) 第10週 グループワーク実習(グループ) 第11週 グループワーク実習(グループ) 第12週 グループワーク実習(グループ) 第13週 プレゼンテーション実践(グループ)				

第14週 プレゼンテーション実践(グループ)

第15週 まとめ(コース毎)

*授業の順番が入れ替わる可能性もある. その都度, 学内掲示もしくはメール (DreamCampusなど) で連絡をするので, 確認を怠らないこと.

【自主学習に関するアドバイス】

第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる (5時間)

第2~4週 講義の内容に関するレポートを作成する (15時間)

第5~6週 各自のノートを整理する (10時間)

第7~9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する (10時間)

第10~14週 課題に関する資料を作成する (15時間)

第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる (5時間)

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず, テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する.

オフィスアワー 小野:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階2814室)

上村:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階2817室)

掛川:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階2803室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する. 本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが, 受け身で授業に臨むのではなく, 本授業を通し, 積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である.

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081516) 大学入門ゼミ T(16) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水3	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 小野 貴史, 上村 忍, 掛川 寿夫	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)				
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.				
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.				
到達目標				
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。				
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス (20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.				
【授業形態】 本講義は全回対面で実施します. なお状況によっては, 一部の講義を遠隔へ変更する可能性があります. その場合は学内掲示もしくはメール (DreamCampusなど) で連絡をするので, こまめに確認すること.				
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース毎) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体) 第5週 情報整理の方法(コース毎) 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎) 第7週 日本語技法その1(コース毎) 第8週 日本語技法その2(コース毎) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎) 第10週 グループワーク実習(グループ) 第11週 グループワーク実習(グループ) 第12週 グループワーク実習(グループ) 第13週 プレゼンテーション実践(グループ)				

第14週 プレゼンテーション実践(グループ)

第15週 まとめ(コース毎)

*授業の順番が入れ替わる可能性もある. その都度, 学内掲示もしくはメール (DreamCampusなど) で連絡をするので, 確認を怠らないこと.

【自主学習に関するアドバイス】

第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる (5時間)

第2~4週 講義の内容に関するレポートを作成する (15時間)

第5~6週 各自のノートを整理する (10時間)

第7~9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する (10時間)

第10~14週 課題に関する資料を作成する (15時間)

第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる (5時間)

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず, テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する.

オフィスアワー 小野:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階2814室)

上村:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階2817室)

掛川:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階2803室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する. 本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが, 受け身で授業に臨むのではなく, 本授業を通し, 積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である.

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081601) 大学入門ゼミ A(1) Startup Seminar on Academic Literacy 植物の機能とバイオテクノロジー Plant functions and biotechnological applications	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 市村 和也, 松本 由樹	関連授業科目 植物生理学, 分子育種学, 遺伝学 履修推奨科目 生物学B			
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 植物は、食料や家畜飼料の供給など農産物生産だけでなく、建材、繊維、燃料の原材料、ひいては花卉園芸など、様々な産業・文化と密接に関連している。また、バイオテクノロジー技術の発達により、海外における農業生産の現場では様々な遺伝子組換え作物やゲノム編集作物が実用化され利用が拡大しつつある。本ゼミナールの前半では、「ノートの取り方」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーション技法」などを学習する。それらをもとに後半では、「植物バイオテクノロジー」「遺伝子組換え作物」「ゲノム編集作物」「遺伝子組換え食品」「ゲノム編集食品」「植物の環境応答」「植物ホルモンの機能」などに関するテーマを各自設定し、自主学習のうえ発表してもらう。聴講する学生はディスカッションに参加する。以上のゼミ活動により植物に関する知的好奇心を高めるとともに科学技術リテラシーを習得し、総合的な能力を身につける。				
授業の目的 大学は学生が能動的に学習し、知識や教養をはじめとして様々なスキルを身に着ける場である。自ら課題を課し、調べ、他者が理解できる形に再編成し発表するスキルは大学のみならず実社会でも重要である。本ゼミナールでは「植物」と「バイオテクノロジー」を題材に、上記のスキルを身に着けることを目的の一つとする。また、その過程で植物の機能や植物バイオテクノロジーに関連した科学技術リテラシーの習得も目指す。				
到達目標				
1. 与えられた課題について自ら様々な方法で情報を収集し、それらを整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) 2. 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(21世紀社会の諸課題に対する探求能力) 3. プレゼンテーションを聴き、ディスカッションに参加することができる。 4. 植物の機能と遺伝子組換え及びゲノム編集などの植物バイオテクノロジーに関する基礎知識を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。				
成績評価の方法と基準 出席状況、課題提出状況、発表内容、授業態度、討論での積極的な発言等を総合して評価し、60%以上で合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
初回の講義で受講者に対してアンケートを取り、興味の方向性を把握する。それを踏まえていくつかの課題を提案し、取り組むテーマを決定する。また、発表の準備の仕方やプレゼンテーション法などについて説明する。全学共通コンテンツとして数回講義するが、その間に各自が担当する課題について下調べをし、プレゼンテーションの準備をする。受講する学生全員に発表してもらい、ディスカッションを行う。履修者の数により以下の授業計画は多少変更する可能性もある。				
【授業形態】 農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウィルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。				
第1回 アイスブレイク、グループ分け、ガイダンス、植物科学に関する講義、アンケート 第2回 学部共通コンテンツ 第3回 課題の説明と決定、取り組み方・発表方法についての説明 第4回 全学共通コンテンツ-1. コンプライアンスと研究倫理 第5回 全学共通コンテンツ-2. ノートの取り方・メールの書き方 - 農学部分館訪問 第6回 全学共通コンテンツ-3. レポートの書き方・文献の調べ方 第7回 全学共通コンテンツ-4. 文章の作成と要約の方法 第8回 全学共通コンテンツ-5. プレゼンテーションの方法 (第3回から第8回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各階は教員の都合により、内容が前後することがある。)				

第9回 アドバイザーミーティング①

第10回 受講者による発表と討論-1. 第1グループ

第11回 受講者による発表と討論-2. 第2グループ

第12回 受講者による発表と討論-3. 第3グループ

第13回 受講者による発表と討論-4. 第4グループ

第14回 アドバイザーミーティング②

第15回 まとめの講義

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。

参考書 やさしいバイオテクノロジー カラー版 芦田喜之著 ソフトバンククリエイティブ。

オフィスアワー 水曜日5時限目 オフィスは農学部BW棟3階305-3室です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主体的に課題に取り組み、他の人の発表時では積極的にディスカッションに参加して下さい。大学入門ゼミでしっかり学べば課題研究（卒論）や社会に出た後も役立つスキルが身につきます。

教員の実務経験との関連

理化学研究所の研究者としてのべ7年間勤務した実績があります。また、イギリスの研究所で研究者として3年間勤務した実績があります。海外での発表経験も含めてプレゼンテーションのスキルを重視してゼミを行います。

ナンバリングコード B1ACL-abcG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081602) 大学入門ゼミ A(2) Startup Seminar on Academic Literacy 糖と植物～希少糖の生産とその利用 (Sugar and plant -Production and usages of rare sugars)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 望月 進, 松本 由樹	関連授業科目 植物生理学 希少糖学 生物統計学 履修推奨科目			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 <p>前半は、学部共通コンテンツとして「ノートの取り方情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを解説する。これらを基に後半では、「糖と植物」「希少糖の生産とその利用」を題材に各自でテーマ設定を行い、自主学習の上で発表してもらう。「植物は光合成で糖を生産する」ということは小学校、中学校、高校を通じて学んできたことであるが、今なお未知の部分も多く、現在でも研究対象の一つとなっている。また、糖は甘味料としての利用はもちろんのこと、その用途は広範囲に及ぶ。香川大学では自然界に微量にしか存在しない単糖である希少糖の生産とその用途開発を全学体制で行っている。これらを背景に「糖と植物」「糖(希少糖)の生産とその利用」に関する様々なテーマに沿ってグループワークで資料・情報を収集し、プレゼンテーションを行ってもらう。このときに聴講する学生はディスカッションに参加するとともに発表者のプレゼンテーション内容に関して情報を収集し、全員で討論することによって興味の幅を広めつつコミュニケーションを行う能力を養う。</p>				
授業の目的 <p>大学は学生が知的好奇心に基づいて能動的に学習し、知識や教養を身につけ、また、研究することで様々なスキルを身につけるための学びの場である。本科目の前半では、「大学における講義スタイルに慣れ、対応する能力」、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」を学習する。後半では、自ら設定した課題について各自がまとめ、プレゼンテーションすることによって課題探求能力を身につけるとともに、共同作業における責任感・協調性のある行動、科学技術リテラシーや論理的思考力を習得することを目的とする。</p>				
到達目標				
(1) 自ら課題を設定し、適切な方法で情報を探索・分析・理解し、まとめることができる (課題発見・解決力/「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「課題解決のための汎用的スキル」に対応) (2) 得られた知識を、聴講者を意識したプレゼンテーションでわかりやすく説明することができる (プレゼンテーション技法/「課題解決のための汎用的スキル」に対応) (3) 科学的な事柄について研究倫理に配慮しつつメリットとリスクを評価できる (科学技術リテラシー/「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) (4) 論理的思考と表現力を伴ったプレゼンテーションと討論の能力を身につける (論理的思考力・コミュニケーション技法/「課題解決のための汎用的スキル」に対応)				
成績評価の方法と基準 出席、レポート、プレゼンテーション・ディスカッションへの積極的な参加、内容全般に対する理解度、提出期限の遵守を総合して評価し、60%以上で合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業方法】 初回の講義で受講者に対してアンケートを取り、興味の方向性を把握する。それを踏まえていくつかの課題を提案し、取り組むテーマを決定する。決定したテーマに関して資料を収集し、調べ、まとめた事柄について順番に発表してもらい、質疑応答や意見交換を行う。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーションソフトPowerPointなどを用いる。なお、進捗状況によって計画を変更することがある。				
【授業計画】 第1回 オリエンテーション・グループ分け・ガイダンス 糖の生産(光合成・微生物反応)に関する講義(1) (イントロダクション) 第2回 学部共通コンテンツ- 農学部分館訪問 第3回 課題の説明と決定、取り組み方・発表方法についての説明 第4回 全学共通コンテンツ(1) コンプライアンスと研究倫理 第5回 全学共通コンテンツ(2) ノートの取り方・メールの書き方 第6回 全学共通コンテンツ(3) レポートの書き方・文献の調べ方 第7回 全学共通コンテンツ(4) 文章の作成と要約の方法 第8回 全学共通コンテンツ(5) プレゼンテーションの方法 第9回 糖の生産(光合成・微生物反応)に関する講義(2) ・アドバイザーミーティング①				

- 第10回 プレゼンテーション資料の作成（1）
第11回 プレゼンテーション資料の作成（2）
第12回 受講者による発表・質疑応答・討論（1）
第13回 第12回での発表に関する質問会とプレゼンテーション資料の改善
第14回 受講者による発表・質疑応答・討論（2）
・アドバイザーミーティング②
第15回 まとめ・総評

【授業の方法】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられているため、基本的に対面授業で行います。なお、新型コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、担当教員からMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信が行われますのでご注意ください。

【自学学習に関するアドバイス】

第4～9回：各回あたり計7～8時間程度をあてる
主に配布する資料を毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる
課題、テーマに関する自学自習を行い、発表の準備をする

第10～14回：プレゼンテーション資料の作成（2～3時間）と各回あたり計4～5時間程度をあてる
課題、テーマに関する自学自習を行い、発表の準備をする
他の発表者の発表内容について復習し、調べ、質問事項をまとめる

教科書・参考書等

特に指定しない。必要に応じてプリント類を配布する。

オフィスアワー 水曜日13時から16時。その他の時間帯でも質問や相談は随時受付ける。事前にメール等でコンタクトを取り、訪問する方が望ましい（農学部CE102-3）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、図書館を利用するなど、インターネットを検索するだけでなく、幅広い資料の収集するなど、責任を持って課題に取り組むこと。

教員の実務経験との関連

（独）農業生物資源研究所（現・農研機構）の研究者として6年間、香川大学農学部の研究者として2年間、理化学研究所の技術員として4年間の勤務実績があり、微生物・植物による物質生産と生理作用に関する酵素・遺伝子レベルでの研究を行ってきた実務経験があります。これらの経験を基に植物や微生物による物質生産（特に糖合成）と各種の糖の用途に関する講義も行います。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081603) 大学入門ゼミ A(3) Startup Seminar on Academic Literacy 果樹栽培を考える	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 望岡 亮介, 松本 由樹	関連授業科目 果樹学、フィールド実習Ⅰ、フィールド実習Ⅱ、農業技術特別実習			
	履修推奨科目 果樹学、フィールド実習Ⅰ、フィールド実習Ⅱ、農業技術特別実習			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 木本性植物(樹木)である果樹は草本性植物(草)と異なり、「桃栗三年柿八年」というように播種または苗木定植後に花の咲かない期間が長いものが多い。また、前年の植物体の管理が次年度に影響を及ぼすため、管理が複雑化し、栽培への経験が要求される。本ゼミナールの前半では、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーション技法」などを学習する。それらをもとに後半では、果樹栽培管理に関するテーマを各自設定し、自主学習のうえ発表してもらい、それにより果樹栽培に関する問題解決について総合的な能力を身につける。				
授業の目的 大学では自分で興味を持った事柄について自分で調べ、知識を身につけていく能力が必要とされている。本ゼミでは、まず果樹栽培の問題点を理解し、解決につながる道筋を自ら調べることから始める。さらに、各自が設定した課題をグループワークを通じてまとめ、プレゼンテーションすることによって、課題探求能力を身につける。最終的には産地形成につながる技術の重要性を、一般の人々に正確かつ分かりやすく説明できるだけの能力を身につけていく。				
到達目標				
(1) 与えられた課題について自ら様々な方法で情報を収集し、それらを整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) (2) 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(21世紀社会の諸課題に対する探求能力) (3) 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 (4) 果樹栽培における問題点を学ぶことを通して、技術開発の重要性を再認識できる。				
成績評価の方法と基準 出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業および学習のアドバイス】 初回に、本ゼミで取り上げる課題について、学生の希望を聞き、教員からの提案も加えて課題案をリストアップする。2回目に、各受講生が取り組む課題とそれぞれの担当者(グループ)を決定する。また、発表の準備の仕方やプレゼンテーション法などについて説明する。全学共通コンテンツとして数回講義するが、その間に各自で担当する課題について自身で学習し、プレゼンテーションの準備をする。受講する学生全員に発表してもらうので、履修者の数により以下の授業計画は多少変更する可能性もある。				
【授業計画】 第1回 アイスブレイク、グループ分け、ガイダンス、アンケート 第2回 学部共通コンテンツ 農学部分館訪問 第3回 課題の説明と決定、取り組み方・発表方法についての説明 第4回 全学共通コンテンツ-1. コンプライアンスと研究倫理 第5回 全学共通コンテンツ-2. ノートの取り方・メールの書き方 第6回 全学共通コンテンツ-3. レポートの書き方・文献の調べ方 第7回 全学共通コンテンツ-4. 文章の作成と要約の方法 第8回 全学共通コンテンツ-5. プレゼンテーションの方法 第9回 ・アドバイザーミーティング① (第5回から第10回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各回は教員の都合により、内容が前後することがある。) 第10回 受講者による発表と討論-1. 第1グループ 第11回 受講者による発表と討論-2. 第2グループ 第12回 受講者による発表と討論-3. 第3グループ 第13回 受講者による発表と討論-4. 第4グループ 第14回 アドバイザーミーティング② 第15回 まとめの講義と施設見学				

【自学自習のためのアドバイス】

第2回、3回、4回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことに協同で取り組むための準備をする。(10時間)

第4回、5回、6回、7回、8回 大学で身につけるべきことを学習するための準備及び課題に取り組む。(20時間)

第3回、10回、11回、12回、15回 自身又はグループの課題を見つけ出し、課題を解決するための学習を行う。また、グループで討論を行い、最終発表の準備及び事後学習を行う。(30時間)

第9回目と14回目はアドバイザーミーティングを実施し、修学上の問題点について話し合う。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

特に指定しない。授業中に配布するプリントが中心とする。

オフィスアワー 事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

教員の実務経験との関連

地方公務員を経験し、その当時、生産者に対し、果樹栽培指導を行ってきた。大学教員となってからは、果樹の野生資源である野生ブドウの研究を中心に行っており、その研究の成果として、香川大学ブランド・ワインの原料である醸造用品種'香大農R-1'を育成、普及に尽力し、それをういた「ソヴァージュ・サヴルーズ」ワインの開発に携わった。品種育成から産地形成について講義を行う。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081604) 大学入門ゼミ A(4) Startup Seminar on Academic Literacy 身の回りの化学物質 (Chemical compounds in daily life)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 鈴木 利貞, 松本 由樹	関連授業科目 生物学B、化学B、基礎生物化学、基礎有機化学			
	履修推奨科目 生物学B、化学B、基礎生物化学、基礎有機化学			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習40時間+事後学習20時間)				
授業の概要 <p>私たちの身の回りには、プラスチック、化粧品、医薬品など様々な化学物質があり、生活が健康で豊かなものになっている。一方で、化学物質には、大気汚染、ダイオキシン、シックハウス症候群などの環境問題を引き起こす負の側面もある。本ゼミでは、まずはじめに全学共通コンテンツとして「研究倫理」、「ノートを取り方」、「レポートの書き方」、「文章の作成方法」、「プレゼンテーションの方法」などを学習する。その後、「身の回りの化学物質」というテーマに基づいて学習することにより、化学物質の正負の側面について理解を深める。その際、選択した課題について、自ら情報を収集してそれらをまとめるとともに、その成果のプレゼンテーションおよび討議を行うことにより、総合的な能力を身につける。</p>				
授業の目的 <p>大学では、自分で興味を持った事柄について、自分で調べて知識を身につけていく能力とそれを他者に説明できる能力が必要とされている。本ゼミでは、まず「文章の作成方法」や「プレゼンテーションの方法」などの全学共通コンテンツを学習することにより、その事柄や意見等を適切に説明できるようになるための基盤的な能力を身につける。また、「身の回りの化学物質」を題材にして、自ら設定した課題について調べ、グループワークを通じてまとめ、最終的にプレゼンテーションすることにより、課題探求能力を身につける。</p>				
到達目標				
<p>(1) 自ら設定した課題を、適切な方法で情報を収集して整理し、まとめることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (2) 得られた知識を、他者にわかりやすく説明することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (3) 学習成果の発表を、研究倫理に関する規範に則った方法で行うことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (4) 「身の回りの化学物質」について、その重要性や多様性、役割、利用などに関して認識し、それらを適切に説明できる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。</p>				
成績評価の方法と基準 出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
[授業計画] 第1回 本ゼミに関するガイダンス、課題に関する講義、など 第2回 学部共通コンテンツ-3 農学部分館訪問 第3回 課題の説明と決定、取り組み方と発表方法についての説明 第4回 全学共通コンテンツ-1 文章の作成と要約の方法 第5回 全学共通コンテンツ-2 ノートの取り方、メールの書き方 第6回 全学共通コンテンツ-3 レポートの書き方、文献の調べ方 第7回 全学共通コンテンツ-4 プレゼンテーションの方法 第8回 全学共通コンテンツ-5 コンプライアンスと研究倫理 第9回 アドバイザーミーティング① (第3回から第8回までの間に、各自の課題に関して自学自習し、発表の準備をする) 第10回 受講者による発表と討論-1 第11回 受講者による発表と討論-2 第12回 受講者による発表と討論-3 第13回 受講者による発表と討論-4 第14回 アドバイザーミーティング② 第15回 受講者による発表と討論-5、まとめ				
<p>この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。また、上記の授業計画は、状況等により変更しますので、連絡・掲示等に注意すること。アドバイザーミーティングには必ず出席すること。</p>				
[授業および学習の方法] 本ゼミの前半に、各自が取り組む課題の決定やグループ分けなどを行う。その後、課題を行うために必要な				

基礎知識である情報収集、整理、発表の方法などについて学習する。この間に、各自が取り組む課題についても調べ、発表のための準備を進めておく。後半に、各自が取り組んだ課題について発表するとともに、質疑応答や意見交換などを行う。

[自学自習のためのアドバイス]

科学的・客観的・多面的な視点を念頭において、課題に取り組む。課題の発表で使用する語句（専門用語など）についても、簡潔に説明できるように準備しておく。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

特に指定しない。必要に応じて、参考書等の紹介やプリント等の配布を行う。

オフィスアワー 本ゼミ終了後～17時頃（当該講義室または農学部BW205-1）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講者の発表に対する討論にも積極的に参加すること。また、図書館を積極的に利用すること。

ナンバリングコード BIACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081605) 大学入門ゼミ A(5) Startup Seminar on Academic Literacy ライフサイエンス (Life Science)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1~	
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 田淵 光昭, 松本 由樹	関連授業科目 生物学B、基礎生物化学、分子生物学、生体防御学、分子細胞生物学、応用微生物学I, II 履修推奨科目 生物学B			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 近年、ライフサイエンス分野はめまぐるしいスピードで進んでいるために、それらを網羅的に理解するのは困難な状況にある。また、昨年からパンデミックで一変した世界では当たり前のようにPCRやワクチン等といったライフサイエンスに関連した専門用語が飛び交う時代にあつて、科学を学ぶ理科系大学生として言葉の知るだけでなくその本質を理解し、応用する思考力が求められる。本ゼミナールでは、まず前半に「ノートの取り方情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーション技法」などを学習し、後半では、前半に修得したスキルを使って、実際に各受講生が興味を持ったライフサイエンスに関する課題を自ら調べて発表を行うことで、ライフサイエンスに対する理解を深める。				
授業の目的 大学の講義では、講義を聞くだけの受動的な姿勢ではなく、能動的に物事を理解し、更に深く探求しようとする姿勢が求められる。本講義では、「ライフサイエンス」というキーワードをもとに新聞やニュースで日常的に聞くライフサイエンスに関連した技術について自ら調べることで能動的に講義に参加する姿勢を身につけてもらう。				
到達目標				
(1) 与えられた課題について自ら様々な方法で情報を収集し、それらを整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) (2) 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(21世紀社会の諸課題に対する探求能力) (3) 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 (4) ライフサイエンスに関連した技術に関する基礎知識を身につける。				
成績評価の方法と基準 発表内容 (50%)、討論への参加状況 (20%)、レポート (30%)				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業および学習のアドバイス】 初回に、本ゼミで取り上げる課題について、学生の希望を聞き、教員からの提案も加えて課題案をリストアップする。2回目に、各受講生が取り組む課題とそれぞれの担当者(グループ)を決定する。また、発表の準備の仕方やプレゼンテーション法などについて説明する。全学共通コンテンツとして数回講義するが、その間に各自で担当する課題について自身で学習し、プレゼンテーションの準備をする。受講する学生全員に発表してもらうので、履修者の数により以下の授業計画は多少変更する可能性もある。				
【授業計画】 第1回 (合同) アドバイザー紹介、大学入門ゼミの説明 (各クラス) 課題の説明、取り組み方・発表・アンケートについて 第2回 課題の決定、グループ分け ライフサイエンスに関するトピックス 第3回 全学共通コンテンツ-1. 情報整理の方法 第4回 全学共通コンテンツ-2. レポートの書き方 第5回 全学共通コンテンツ-3. 日本語技法① 農学部図書館訪問 第6回 全学共通コンテンツ-4. 日本語技法② 第7回 全学共通コンテンツ-5. プレゼンテーションの方法 (第3回から第7回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各階は教員の都合により、内容が前後することがある。) 第8回 アドバイザーミーティング 第9回 受講者による発表と討論-1. 第1グループ 第10回 受講者による発表と討論-2. 第2グループ 第11回 受講者による発表と討論-3. 第3グループ 第12回 受講者による発表と討論-4. 第4グループ 第13回 まとめの講義 第14回 新入生合宿の振替 (休講) 第15回 新入生合宿の振替 (休講)				

【自学自習のためのアドバイス】

第1回、2回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことに協同で取り組むための準備をする。(10時間)

第3回～7回 大学で身につけるべきことを学習するための準備及び課題に取り組む。(20時間)

第2回～13回 自身又はグループの課題を見つけ出し、課題を解決するための学習を行う。また、グループで討論を行い、最終発表の準備及び事後学習を行う。(30時間)

【課題例】

「制限酵素と修飾酵素：DNAを切り貼りします」、「逆転写酵素：RNAからDNAを作ります」、「PCR法：DNAを増幅します」、「DNA塩基配列決定法：DNAの配列を読みます」、「遺伝子組換え技術：大腸菌がヒトのタンパク質を作ります」、「モノクローナル抗体：一つの抗原のみを認識します」、「抗生物質：病原菌を殺す薬です」、「RNA干渉：特定のRNAを分解します」、「遺伝子ノックアウト：特定の遺伝子の機能を無くします」、「蛍光タンパク質：生きた細胞で観察できます」、「iPS細胞：人工的に作られた何にでもなれる細胞です」、「ゲノム編集：遺伝子を改変します」、「RNA, DNAワクチン：RNAやDNAを用いたワクチンでウイルス感染を予防します」など。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。

参考書は適宜指示する。

オフィスアワー 水曜日10時から17時（会議などで不在になることがあるので、事前にメールにて連絡すること）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

責任を持って自分の課題に取り組むと同時に、他の人の発表についても積極的に討論に参加すること。

教員の実務経験との関連

農学部や医学部で長年ライフサイエンスに関連する研究・教育に携わってきた実務経験をもとに、ライフサイエンスについて自ら調べてプレゼンをする技術について講義します。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081606) 大学入門ゼミ A(6) Startup Seminar on Academic Literacy 身の回りの毒と薬	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 柳田 亮, 松本 由樹	関連授業科目 天然物化学、生物資源機能化学コース科目群 履修推奨科目 天然物化学・生物資源機能化学コース科目群		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 前半は、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」を解説する。後半は、身近な毒と薬について学ぶ。生物は自身の生存を助ける様々な二次代謝産物を作っている。その多くは有機化合物であり、主に生体内のタンパク質の機能を阻害したり増強したりすることによって生物活性を示す。それらは競合相手の生物にとっては毒であるが、一方で、生物間の化学コミュニケーションを媒介するシグナル分子としても働く。また、天然有機化合物は、人間にとっては有用な医薬品の重要な源である。本ゼミでは、まず天然物について講義し、受講者に天然物とはいかなるものか理解してもらう。その後受講者は、興味をもった身のまわりの「毒と薬」について資料を収集しまとめ、その内容を一人または少人数グループが他の学生にわかりやすく発表し、全員で討論することによって、身近な「毒と薬」についての理解を深める。			
授業の目的 大学では知的好奇心に基き、自ら知識を身につけ、研究をするために存在する。本ゼミでは大学における講義のスタイルに慣れ、これに対応する能力、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」を前半で学習する。後半では、まず酵素とは何かを理解し、さらに身の回りにある酵素を題材として各自がまとめ、各自またはグループ単位でプレゼンテーションすることによって課題探求能力を身につけることを目的とする。			
到達目標			
(1) 自分で取り組む課題を考え、その関連資料を探索し分析・理解することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 研究倫理に配慮し、集めた資料を参加者に理解できるようにまとめることができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) まとめた内容、主張を参加者に理解できるようにプレゼンテーションすることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 (4) 発表に対する質疑応答を通じて意見交換、論理的思考、表現力に関する能力を身に付けることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。			
成績評価の方法と基準 出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】受講者は各自またはグループで興味のある天然有機化合物を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてその化合物についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。アドバイザーミーティングには必ず出席すること。			
[授業計画] 第1回 本ゼミに関するガイダンス、課題に関する講義、など 第2回 学部共通コンテンツ-3 農学部分館訪問 第3回 全学共通コンテンツ-1 コンプライアンスと研究倫理 第4回 全学共通コンテンツ-2 ノートの取り方、メールの書き方 第5回 全学共通コンテンツ-3 レポートの書き方、文献の調べ方 第6回 全学共通コンテンツ-4 文章の作成と要約の方法 第7回 全学共通コンテンツ-5 プレゼンテーションの方法 第8回 魚毒の化学と生物学 (講義) 第9回 アドバイザーミーティング① (第3回から第8回までの間に、各自の課題に関して自学自習し、発表の準備をする) 第10回 発表準備 第11回 発表準備2 第12回 グループによる発表-1回目 第13回 グループによる発表-2回目 第14回 アドバイザーミーティング② 第15回 受講者による発表と討論、まとめ			

【自学学習に関するアドバイス】

4～11週：各回あたり計7～8時間程度をあてる

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

特に指定しない。授業中に配布するプリントを中心とする。

オフィスアワー 質問や相談は、随時受付ける（農学部BW-206）が水曜日5校時が良い。
それ以外には事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081607) 大学入門ゼミ A(7) Startup Seminar on Academic Literacy ヒトの暮らしと微生物 (Microorganisms and human living)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミックリテラシー	提供部局 :大教センター DPコード :acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 櫻庭 春彦, 松本 由樹	関連授業科目 生物学B, 微生物学, 応用微生物学I, 応用微生物学II 履修推奨科目 微生物学, 応用微生物学I, 応用微生物学II		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 微生物は、食品から医薬品まで様々な有用物質を生産する発酵工業に利用され、生活に利益をもたらしている。また微生物が持つ特殊な能力は、環境浄化をはじめ多様な分野への応用が期待されている。一方で、病原性が問題となる微生物も存在する。このように微生物は「ヒトの暮らし」と密接に関係している。本ゼミナールは、前半に全学共通コンテンツ(ノート・レポートの書き方、日本語技能、プレゼンテーション技法等)を学習し、後半では各受講生が興味を持った微生物に関する課題を自ら調べて発表を行うことで、微生物の多様な能力や性質についての理解を深める。			
授業の目的 前半では、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」などを学修する。後半では、農学分野に深く関わる「微生物の多様な能力や性質」に関する課題を題材にして各自がまとめ、各自またはグループ単位でプレゼンテーションすることによって課題探求能力を身に付けることを目的とする。			
到達目標			
1. 課題に対して、情報を収集して整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) 2. 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(プレゼンテーション技法) 3. 学修成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 4. 微生物について、その多様性、性質、役割、利用などに関して認識し、それらを適切に説明できる。			
成績評価の方法と基準 出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 初回の講義で受講者に対してアンケートを取り、興味の方向性を把握する。それを踏まえていくつかの課題の中から、取り組むテーマを決定する。テーマに関して情報を収集して整理し、まとめたものを発表してもらい、質疑応答や意見交換を行う。			
[授業計画] 第1回 ガイダンス、課題説明、アンケート 第2回 課題決定、グループ分け、発表方法紹介 第3回 学部共通コンテンツ-情報整理1 第4回 学部共通コンテンツ-情報整理2 第5回 全学共通コンテンツ-レポートの書き方・文献の調べ方1 第6回 全学共通コンテンツ-レポートの書き方・文献の調べ方2、農学部分館利用案内 第7回 全学共通コンテンツ-プレゼンテーションの方法1 第8回 全学共通コンテンツ-プレゼンテーションの方法2 第9回 アドバイザーミーティング (第3回から第9回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各回は教員の都合により、内容が前後することがある。) 第10回 受講者による発表と討論1 第11回 受講者による発表と討論2 第12回 受講者による発表と討論3 第13回 まとめ (合宿で2回分の授業を行う)			
【自学学習に関するアドバイス】 第1回, 2回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことに協同で取り組むための準備をする。(10時間) 第3回-9回 大学で身につけるべきことを学習するための準備及び課題に取り組む。(20時間) 第10回-13回 課題を見つけ出し、これを解決するための学習を行う。また、討論を行い、最終発表の準備及び事後学習を行う。(30時間)			

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。

オフィスアワー 授業終了後に行う。それ以外の場合は、事前に連絡を取り訪問日時を決定し行う。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081608) 大学入門ゼミ A(8) Startup Seminar on Academic Literacy 作物栽培入門	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 諸隈 正裕, 松本 由樹	関連授業科目 フィールド実習 I, II 履修推奨科目 生物学A			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 作物栽培とは生命を維持していく上で欠かすことのできない食料生産の基礎をなす部分であり、さらに生活を豊かにするための作物も多く存在している。本ゼミでは、まずはじめに、全学共通コンテンツとして「コンプライアンスと研究倫理」「ノートの取り方とメールの書き方」、「レポートの書き方と文献の調べ方」、「文章の作成と要約の方法」、「プレゼンテーションの方法」を解説する。後半は、作物栽培の基礎についての理解を深める。その際、興味をもった作物の栽培に関する資料をグループごとに収集しまとめ、その内容を各自が他の学生にわかりやすく発表し、全員で討論することによって、課題発見や課題解決のための能力を養う。				
授業の目的 大学とは知的好奇心に基き、自ら知識を身につけていく能力とそれを他者に説明できる能力を養うところである。本ゼミでは大学における講義のスタイルに慣れ、これに対応する能力、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「文章の作成方法」および「プレゼンテーションの方法」等を前半で学習する。後半では、まず作物栽培の基本について理解し、さらに各種作物を題材とした栽培管理についてグループワークとしてまとめ、各自でプレゼンテーションすることによって課題探求能力を身につけることを目的とする。				
到達目標				
(1) 自分で取り組む課題を考え、その関連資料を探索し分析・理解することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 研究倫理に配慮し、集めた資料を参加者に理解できるようにまとめることができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) まとめた内容、主張を参加者に理解できるようにプレゼンテーションすることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 (4) 発表に対する質疑応答を通じて意見交換、論理的思考、表現力に関する能力を身に付けることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。				
成績評価の方法と基準 発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 受講者は各自またはグループで興味のある作物を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてその作物栽培についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション制作ソフトPowerPointを用いる。なお、進捗状況によって計画を変更することがある。				
【授業計画】 第1回 アイスブレイク、グループ分け、ガイダンス、植物科学に関する講義、アンケート 第2回 学部共通コンテンツ- 農学部分館訪問 第3回 課題の説明と決定、取り組み方・発表方法についての説明 第4回 全学共通コンテンツ-1. コンプライアンスと研究倫理 第5回 全学共通コンテンツ-2. ノートの取り方・メールの書き方 第6回 全学共通コンテンツ-3. レポートの書き方・文献の調べ方 第7回 全学共通コンテンツ-4. 文章の作成と要約の方法 第8回 全学共通コンテンツ-5. プレゼンテーションの方法 (第3回から第8回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各階は教員の都合により、内容が前後することがある。) 第9回 アドバイザーミーティング① 第10回 受講者による発表と討論-1. 第1グループ 第11回 受講者による発表と討論-2. 第2グループ 第12回 受講者による発表と討論-3. 第3グループ 第13回 受講者による発表と討論-4. 第4グループ 第14回 アドバイザーミーティング② 第15回 まとめの講義				
【自学学習に関するアドバイス】 4～9週: 各回あたり計7～8時間程度をあてる				

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

特に指定しない。授業中に配布するプリントを中心とする。

オフィスアワー 質問や相談は、本授業の後に対応する。
それ以外には事前にメールでコンタクトを取ることが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード BIACL-abcG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081609) 大学入門ゼミ A(9) Startup Seminar on Academic Literacy 身の回りの化学物質	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士: 入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : abc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 深田 和宏, 松本 由樹	関連授業科目 化学B, 化学P, 生物B, 基礎有機化学, 基礎生物化学, 分析化学			
	履修推奨科目 化学B, 化学P, 生物B, 基礎有機化学, 基礎生物化学, 分析化学			
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習 40時間+事後学習 計20時間)				
授業の概要 本ゼミの前半(1～8回)では全学共通コンテンツとして「ノートの取り方情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを学習する。その後の9～15回では、身の回りの化学物質に関する知識を増やして自らの課題を設定し、信頼性のある情報を収集する。収集した情報はまとめて整理し、他の受講生にプレゼンテーションを行う。以上によって大学での学習を進めていくための総合的な能力を身につける。				
授業の目的 大学では、自分で興味を持った事柄を自分で調べて知識を身につけていく能力とそれを他者に説明できる能力が必要とされている。本ゼミでは、まず「文章の作成方法」や「プレゼンテーションの方法」などの全学共通コンテンツを学習することにより、その事柄や意見等を適切に説明できるようになるための基盤的な能力を身につける。また、身の回りの化学物質を題材にして、自ら設定した課題について調べ、グループワークを通じてまとめ、最終的にプレゼンテーションすることにより、課題探求能力を身につける。				
到達目標				
(1) 与えられた課題について自ら様々な方法で情報を収集・整理してまとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) (2) 得られた知識をわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(21世紀社会の諸課題に対する探求能力) (3) 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 (4) 日常生活や各種生産活動における化学の役割を学ぶことを通し、化学的知識の重要性を再認識できる。				
成績評価の方法と基準 出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 受講者は各自またはグループで興味のある化学物質を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者が理解できるように整理する。更に、本講義内においてその化学物質についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表ではMicrosoft社のプレゼンテーション用ソフトPowerPointを用いる。 なお進捗状況によっては計画を変更することがある。				
【授業計画】 第1回 アイスブレイク、グループ分け、ガイダンス 第2回 課題の発見と紹介(前半講義, 後半グループワーク) 第3回 全学共通コンテンツ-1. 情報整理の方法-1(ノートの取り方・メールの書き方) 第4回 全学共通コンテンツ-2. 情報整理の方法-2(文献の調べ方と読解) 第5回 全学共通コンテンツ-3. レポートの書き方-1(レポート作成のルール) 第6回 全学共通コンテンツ-4. レポートの書き方-2(文章の作成と要約の方法) 農学部分館訪問 第7回 全学共通コンテンツ-5. プレゼンテーションの方法-1 第8回 全学共通コンテンツ-6. プレゼンテーションの方法-2 (第2回から第8回までの間に各自のテーマに関して自学自習し発表の準備をする) 第9回 アドバイザーミーティング(学修ポートフォリオについて) 第10回 プレゼン発表の準備(グループワーク) 第11回 グループによるプレゼン発表 第12回 プレゼン資料の改善作業(グループワーク) 第13回 グループによるプレゼン発表-2回目 (上記スケジュールとは別に、新入生合宿時の授業(2回分)がある)				

【自学学習に関するアドバイス】

授業日程の前半では、配布されたテキストを毎回予習・復習し、日常生活や他の授業で実践してみることに。この間に課題やグループのテーマに関して自学自習し、後半日程で行う発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

参考書：

分子と人間, P.W. Atkins著, 千原秀昭・稲葉章訳, 東京化学同人(1990). 農学部図書分館所蔵
化学大図鑑 Newton大図鑑シリーズ (2020). 農学部図書分館所蔵

オフィスアワー 水曜日16時20分から17時20分

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

主体的に授業に取り組むように望みます。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081610) 大学入門ゼミ A(10) Startup Seminar on Academic Literacy 身の回りの酵素 (Enzyme in everyday life)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2021年度 前期水4	対象年次 1～	
	水準 学士:入門科目 分野 アカデミック リテラシー	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし	
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2		
担当教員名 森本 兼司, 松本 由樹	関連授業科目 酵素利用学・食品科学コース科目群 履修推奨科目 酵素利用学・食品科学コース科目群			
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)				
授業の概要 前半は、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」を解説する。後半は、身近な酵素について学ぶ。酵素は生物が作り出す生体触媒であり、その化学的自体はタンパク質からなっている。酵素は食物の消化や運動など生体内で起こる様々な反応を触媒しており、生命を維持していくうえで欠かすことのできない生体分子である。一方で、人間は生活を豊かにするために、古代より様々な用途に酵素を利用してきた。本ゼミでは、まず酵素について講義し、受講者に酵素とはいかなるものか理解してもらう。その後受講者は、興味をもった身のまわりの酵素について資料を収集しまとめ、その内容を一人または少人数グループが他の学生にわかりやすく発表し、全員で討論することによって、身近な酵素についての理解を深める。				
授業の目的 大学では知的好奇心に基き、自ら知識を身につけ、研究をするために存在する。本ゼミでは大学における講義のスタイルに慣れ、これに対応する能力、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」を前半で学習する。後半では、まず酵素とは何かを理解し、さらに身の回りにある酵素を題材として各自がまとめ、各自またはグループ単位でプレゼンテーションすることによって課題探求能力を身に付けることを目的とする。				
到達目標				
(1) 自分で取り組む課題を考え、その関連資料を探索し分析・理解することができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 研究倫理に配慮し、集めた資料を参加者に理解できるようにまとめることができる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) まとめた内容、主張を参加者に理解できるようにプレゼンテーションすることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。 (4) 発表に対する質疑応答を通じて意見交換、論理的思考、表現力に関する能力を身に付けることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル (幅広いコミュニケーション能力)」に対応)。				
成績評価の方法と基準 出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。				
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス				
【授業の方法】 農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行う。なお、コロナウィルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性がある。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意すること。基本的に講義内容は下記のとおりとする。 受講者は各自またはグループで興味のある酵素を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてその酵素についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。				
【授業計画】				
1. オリエンテーション、グループ分け、ガイダンス 2. 学部共通コンテンツ 農学部図書館利用 3. 全学共通コンテンツ-1. コンプライアンスと研究倫理 4. 全学共通コンテンツ-2. ノートの取り方・メールの書き方 5. 全学共通コンテンツ-3. レポートの書き方・文献の調べ方 6. 全学共通コンテンツ-4. 文章の作成と要約の方法 7. 全学共通コンテンツ-5. プレゼンテーションの方法 8. 酵素利用学概論 (講義) 9. アドバイザーミーティング① 10. 発表準備1 11. 発表準備2 12. グループによる発表-1回目 13. プレゼン資料 改良				

14. グループによる発表-2回目
アドバイザーミーティング②
15. まとめ

【自学学習に関するアドバイス】

4~11週：各回あたり計7~8時間程度をあてる

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

特に指定しない。授業中に配布するプリントを中心とする。

オフィスアワー 質問や相談は、随時受付ける（農学部BE102-1）が水曜日5校時（講義終了後に相談）がよい。それ以外には事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。